滿洲日報

●山東丸 廿六日午前出帆 太沽、芝罘、門司、神戸行
(電話二六番)
代理店 兄弟商會 遠來洋行
松茂洋行船舶部
(電話五二番)

我紙の一週年

滿洲日報

去年本月本日始めて我紙を發刊してより、我紙は新聞紙として極めて順當の成長を遂げ、玆に本日を以て第一週年を迎ふるに至りぬ。

回顧すれば去年創刊の際に在りては時尚兵馬倥偬、且つ事倉卒に出で萬端の設備未だ大に整ふに遑あらず、諸種の困難に抵抗して新聞を發行せる、其事已に尋常の業にあらざるに、當時滿洲に於て我紙獨り日刊新聞の魁を爲し、新智識の供給者として自ら任ぜる、則ち過去一年間に於ける我歷史や、縱令刮目に値すべき得色を見る能はざりしにせよ、其平穩無事なる行程中にも、常に勢力を蓄積して後日の發展を期せるに努めたる結果、今や其第一週年祝日たる本月本日を以て聊か活動を試むべき機運に到達し、紙上の面目を一新するに至れる、是れ同人の密に相慶し、而して讀者平生の眷顧に對し、亦稍ゝ相酬ゆるの光榮を得たるを悅ぶ者、而も吾徒が創刊一週年に際し特に之を祝する所以のもの、單に其誕辰を祝し健全の成長を祈るに止まらず併せて此吉辰の適ゝ以て我紙發展の動機たるを信ぜずんばあらず。

本日以後我紙は內容體裁二つながら新聞紙としての本能を發揮するに勉むるは勿論なりと雖も由來滿洲の地の無味乾燥なる、在留邦民の欲望は趣味の要求に在るを以て、我紙は改善の第一着手として、最も意を此に用ゐ事實の報道以外、可及的其趣味を多樣にし、以て讀者が娛樂の好伴侶たらんことを期す、若し夫れ我紙の本領に至りては、我邦民の滿洲に活躍を試むるの後援となるや、復た絮說を要せず、此に發刊第一週年に際し、我紙が將來發展の一端を叙して豫め讀者に約し、重ねて來るべき第二週年に於て之を事實の上に徵せんことを期す。

雜報

●御贈品と親書　天皇陛下には過般駐米青木大使を以て米國大統領ルーズヴェルト氏へ緋威鎧、鍬形龍頭の兜附一領、同夫人へ御紋附蒔繪手函を贈進あらせられたる趣にて大統領同夫人は　陛下の日本美術の粹巧を極めたる御贈品に對し頗る滿足せられ深厚なる謝意を表せる親書を送致し來りし由過日右本邦同國大使ライト氏が參內謁見仰付られ親書を捧呈せるは右の爲めなりと洩れ承はる

●露國の態度　逆般外務當局より發送したる日露通商及び漁業條約の原案は既に本野駐露公使の許に到達し談判開始の日取となり居れるも未だ何等の公報あらざる由なるが右新條約の締結は日本に取りては利益あれ露國に取りては假令締結せざるも最惠國條款の特典に浴するのみならず却て漁業條約締結の如きは自國に取つて不利益少なからざれば或は露淸談判と同一の態度に出で言を國內の騷擾に假りて談判の開始を避け居るにはあらずや果して然らんには既に暑中休暇の頃なれば休暇後即ち九月中旬頃とならざれば談判開始を見るに至らざるべしと云ふものあり

●大連開放と外國人　大連は愈ゝ九月一日を以て開放することに內定したるに就ては同日以後同地居留の各國民は我が法權の下に支配さるべきは勿論にして之に關する各般の規定及び準備を要する爲め遠からず發布の關東州都督府官制中に於て之に關する必要なる諸機關の制度を定めらるべく之に對する諸般の準備は既に關東州總督府に於て孜々着手し居れりといふ

●軍票最近流通高　滿韓に於ける軍用手票は其後政府に於て爲替又は正金銀行一覽拂手形を以て漸次回收し且つ撤兵の終了と共に其使用も次第に減少したるを以て昨今は凡そ千五六百万圓の流通に過ぎず爲めに其價格も一時の安かりしに比して漸次騰貴しつゝありと云ふ

●目賭耳聞　▲▲▲　日淸戰役後間もなく川上參謀總長を失ひ日露戰役後程もなく兒玉參謀總長を失つたは如何に不思議たと頻りと氣を揉む人かある▲明治十七年か京城の變で夫から十年目が日淸戰役又夫から十年目が日露戰役と恰も年月の上に於も變動の起るを豫定されてゐるかの如きと同一の現象だろう▲兎にも角にも之の內外多事の日に當て日本隨一の大立物たる而も尙春秋に富まれたる藤園將軍を失つたのは返すゞゞも痛惜の至りである▲將軍は其の陸軍次官としてよりも滿洲總司令部參謀長としてよりも內務大臣としてよりも乃至參謀總長としてよりもより多く臺灣總督として其技倆を發揮せられたのは皆人の知る處である▲將軍が乃木總督の跡を亨けて臺灣に臨むや後藤新平を一局長より拔擢して民政長官と爲し一切の裁決を一任した▲當時將軍の知己友人は「アノ駄螺吹きの藪醫者に何が出來るものか」と頗る其成功を危ぶんだが其後臺灣の經營は着々功を奏するを見て將軍の人を見るの眼力に敬服したさうである▲臺灣總督官邸は輪奐の美眼を驚かすものあるか之は只對土人政策としての建築で將軍の本意でない▲將軍は別に郊外古亭庄の畠の隅にチツポグなる別莊を造つて野村子爵の揮毫に係る南菜園と題せる扁額を揭げ暇ある每に單身飄然として玆處に赴き悠遊自適せられて居た▲敏腕家としての將軍は吾輩の喋々を待たないが情誼に篤い點も屢々見受けた其一例を擧ぐれば久しく將軍の邸に役はれた男が少々失敗つて暇を出す時

日光華巖の瀧

銷夏錄

雲烟過眼　草生

讀みたくてたまらぬ本があつてそれを注文する爲に僅かな金を郵便爲替で送らうと南永世街の宅から郵便局までわざゞゞ行く道の事。去年の今頃此地へ來た時は隨分荒漠な淒まじい處だと思つたがまだその俤を殘してゐる此邊の砂原道を北へ出て第二市場の前へ出ると所謂市街鐵道の線路が縱橫に蜘蛛手をなしてゐる新しく拵へられた有蓋客車や腰掛だけ付いた無蓋のや、泥や土を運ぶ其儘の車やがでたゞゞと並んで其處邊へ荷造した亞鉛板や材木や丸太がてくゞゞと積んである。カーキーの服を着た男か一人そわゞゞとその取に驅けまはつてゐると你やゞゞとねむたげな聲をしながら苦力が四人斗りのそゞゞと荷物を動かしてゐる、ではない、荷物に觸つてゐると云つた方か適當であらう、それをまたカーキーが怒鳴り付けなから一人てあせれば急るはぞ苦力は猶まごついて、只忙然と突つ立つて果ては例のせゝら笑ひをして各自に無駄口ばかり聞いてゐる支那人はどうして、彼樣悠長だらう、日本人はどうしても、せかつくだらうと思つたまゝ、猶北へ拔けて三つ角へ出ると北手の方から車か三四臺驅けて來た、と見ると蝦茶が乘つてゐる。これが日本外征者の急先鋒だと思つてまた見直す、第一番の拙顔の巾の廣い、目の四角なの、二番目のは面長な目尻の釣り上つた拔衣紋、扨三番目のは丸ぽちやて色か白くて、これはと思つたら目と鼻の小いのに驚いた。その跡からもまた二臺やつて來る。いづれも着飾つて、濟まして揚々としてゐる。考ゑて見るとけふは檢査といふ日だ。人の前に出るのさへ面を赤らめ、口一つ利くのにも俯向いて羞むといふ乙女か、かうなるのもその身の境遇かさせるのとは分つてゐるけれど、扨淺ましいと思はぬてもない、それはもう、人の口にかゝつてうかゝと出て來たのもあらう、親や夫の難儀に身を落したのもあらう、但しは一時のもの好な出來心から流れ渡つて來たのもあらう、月の夜頃、雨の朝、來し方を辿り、行く末を思つて流す淚の冷からぬてとも思ひもやられるけれど扨淺ましいと思はぬでもない、併しさまゞゞな人の身の上、量られぬは明日の運命、只五十年の命をへ終るのに人名やそれほどの豹變を經、ぞさはぞの流轉を過ぎるかと徃く徃くまたしても例の冥想に耽ける。か、我身自身はぞうであらう親もなく妻もなく古郷に思ふ事はない何の爲に稼いて、誰れに喜ばれやうと今日の容姿を裝つてゐる、彼等醜業婦の中の、或者は鬼の樣な親方に責められてゐる憂身の中から一圓の金を工面してわざゞゞ親許に送つたものかあるといふことを聞いた。一圓、只の一圓、實に輕少な何の足にもならぬ金である。けれどもそれを自分の娘から送られたその情を思つて、其親はそれほど喜んだらう、屹度泣いて喜んだに違ひないか拐此身はどうだ、十百萬を積んでもそれを喜ばさうといふものはなく、同じ高の一圓だけれど本を買ふ爲に今送りに往つてゐる身の上。實に淺ましいゞゞと思つた。馬車か來る、車か來る、人が來る、日本人も外國人も、支那人も忙しさうに通つてゐる彼等は皆樂しみを持つてゐるのであらう。而して自分はとふと立廻まると右手の吾妻床の鏡に自分の姿が映つた。淺ましいての姿。

祝賀

謹賀滿洲日報第一週年拜草一章敢贈之　岩城黃雨

夙知時務即眞儒。日報從來德不孤。
嘖々盛名振木鐸。鏘ゝ聲譽待操觚。
一篇修字新音裕。滿幅文章錦繡殊。
最惧亞洲多事際。筆研翼ゝ副皇圖。

評日過褒不敢當

虔祝營口第二次記念日賦一絕以寄　同人

偃武修文第二年。東洋懿業趾更堅。
江城今見繁華地。旭日眞家局紫煙。

評日落ゝ抒寫非老成不能　小樹妄批多罪

營口占領第二週年を祝して　遼陽　黃雛

もろこし野仰く旭の旗風に
　靡くや醜のもゝしきの草

同　耕南

あれすさふもろこしの野に日の本の
　光をうけて咲くやこのはな

同　淸閒

あれはてしはた耕して二とせの
　心ゆたけく祝ふたみ草

同　同人

ふか露になやみし艸木ときを得て
　天てらす日のめくみうけけり

田舍女子

日の本の光りもてゝに益良男の
　たてしいさをしのふ今日かな

營口中間生

大君のふかき惠みは武夫の
　ちしほの跡にゆき渡るなり

綠園

外國の民もろともに祝ふなり
　榮え行く世のたちしよき日を

國香女史

ますらをのかちときあけしふたと世の
　昔しをいはふけふそめてたき

いさましきそのかちときもふたとせの
　昔しとなりて祝ふ今日かな

わし江

あなかしこ祖國の榮を君が御手に
　二年かざす黃金　向日葵

紀念日の祝章

祝へゝゝ祭さわぎも御國振り　茶亭
草茂れ木しけれ御稜威及ぶ國　默堂
花笠は夏も櫻のまつりかな　てい
肩身廣き思ひを祝ひまつり哉　水哉
樣ゝの事思はるゝまつりかな　千曲
移植ゑて二年過ぎたる茂り哉　仙橋
青あらし戶ゝの門頭日章旗　朴齋
國柱てゝに嬉しき幟かな　小僧
日の御旗二とせをてゝ風薰る　野梅

甲 愈ゝ鐵道大經營をオツ初めると營口は繁昌すまいね
乙 イヤ屹度繁昌するよ
甲 それは又何故？
乙 土地が營口だもの……

祝
軍政開始貳周年
滿州日報壹周年
加藤洋行

發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

謹みて營口軍政開始第二週年の吉辰を祝し併せて與倉軍政官及ひ署員各位の健康を祈る

滿洲日報社員一同

東京電報

●奉公御嘉賞（廿三日發）三十七八年戰役中各種團隊公私後援の寄附に對し奉公を嘉賞する旨御沙汰ありたり

●海底電線開通期（同上）日米海底電信は八月一日より開始の豫定

●刑法起草委員（同上）穗積、倉富、平山、岡田、菊地、江木、磯部、鳩山、粂松、花井諸氏刑法起草委員囑托を命せらる

●兒玉大將へ御沙汰（同上）五月一日附を以て兒玉大將へ功一級に取し金鵄勳章年金一千五百圓旭日桐花大綬章を授け賜ふ旨の御沙汰あり又同大將は特旨を以て位一級を進め正二位に叙せられたり

大連電報

●馬賊の襲來（二十五日午前特電）馬賊一千五百名猴子窩を襲ひ官金十萬圓を奪ひ巡査巡捕等戰死又は負傷僅に身を以て遁がれたり匪徒は尚火を放ちて家を燒くもの無數普蘭店より三里猴子窩街道にある當東家房巡査駐在所亦襲はる巡査四名中二人戰死し十日許り前内地より來れる其の妻女及び外日本婦人亦捕られ携へ行かる

旅順電報

●鐵道委員の出發（廿四日發）鐵道受領委員一行今朝出發せり中村委員長は昨日已に先發し鐵嶺に在り

遼陽電報

●仙波少將の歸朝（廿ヶ日發）仙波少將は趙將軍の請待に應じ同將軍より特に派したる幕僚と共に去る二十三日當地を出發されたるが本日安奉鐵道に由り歸朝の途に就かる〻筈なり

●軍旗祭擧行（同上）當地六十二聯隊は編成後一週年に當り來る八月八日軍旗祭を行はる豫定なり

●山中師團長祝電（廿五日發）貴社新聞發刊一週年を祝して併せて將來の隆盛を祈る

●兒島聯隊長祝電（同上）創立一週年の盛儀を祝し貴社の隆盛を祈る

記者曰く本社創立一週年を迎ふる爲め中外名家及び社友より祝詞祝電を寄せらる〻者机上に積んで堆をなす而も紙面限りあり悉く登載を得ず甚だ慽むべしと雖も唯だ最先到着の祝電二通を揭げ此に其厚意を敬謝す

鐵嶺電報

●委員の鐵嶺出發（廿五日發）第三回鐵道受領委員中村少將一行今日當地發長春に向へり

倫敦電報

●露國首相更迭（廿四日發）露國首相ゴレムキン氏は其職を免ぜられ内務大臣ストリピン氏其後任を命せらる

●ク軍港の暴動（同上）露國クロンシタツト軍港には又も暴徒蜂起し守備隊と交戰中なりと

雜報

●北京通信
七月二十二日　特別通信員

露公使の回京

前に北載河に避暑中なりし露公使ポコチロフ氏は同じく十四日再び北京に舞ひ戻り候先に黑龍江將軍程德全排斥露清密約の本家周冕の再任運動の爲め避暑地より回京し京都の紅塵万丈を冒して東奔西走せし甲斐もなく外務部よりスゲなく拒絶され却つて外務部より露清交渉の難問題を持ちかけられしを以て再び避暑に籍口け再び避暑に出掛けし者なるに未だ旬日を出てざるに再び回京せしは何等かの深かき意味ある者と想像致され候或者は曰くポコチロフ氏の歸京は林公使の辛任肅親王の回京と深かき關係を有する者にて其今後の行動大に注目すべき者あらんと蓋し此説は露公使回京の眞相を穿てる言にして當に想像説として一笑に附すべきに非す候彼が寸時も北京外交消息に注目するを怠らす事に遇ひ時に應じて機宜の處置を忽せにせざるは吾人の大に感服する所にして或は林公使も好敵手を得たりと喜ばる〻事かと存じ候又露國公使館通の云ふ所に依れは露公使は北載河に於ける避暑中は勿論歸京後も頻に滿洲に關する日本の著書日本の滿洲に於ける行動に關する記事なぞを集め盛に日本の對滿洲政策の研究に熱注し居る由にて實に御苦勞千萬の至に御座候併し多少の缺點にも乘じて種々なる中傷術に長じたる露公使なれは如何なる事を淸國に申込むやも計られず決して看過すへき事實にあらす候吾人は讀者諸君と共に蛇が出るか蚯蚓が出るか其將來の行動に注目すへく候

●旅順通信
刀水生

▲旅順の戶數と人口　在旅順內地人は二千四百十八內男千六百九十七女千二百二十七比較的に女子の多きと滿洲第一、それで戶數が五百七十二、

▲營業種別　五百七十二の總戶數中料理店百九軒、飲食店八十八、宿屋五十六、下宿屋二十九、合計二百八十二戶、殘の二百九十に官衙もあれは官舍もある、

▲旅順の商業　規模の小なること大連よりも小なり、雜貨店八十、食料品販賣二十九、菓子屋二十一、生肉販賣十四、魚商十、酒類商十二、豆腐製造七、まるで内地に在る辺鄙地の資格を有す

▲魚市塲の合資組織　旅順の魚市塲は合資組織に成る、其の資金一万八千圓出資者は井上鶴藏、氏家嘉作、安部野利恭の三氏社長は井上氏なり、

▲野菜市塲　野菜市塲は二万四千圓の資本にて起され今工事中、出資者は高瀨敏、川久保鐵藏、阿部野利恭、井上鶴藏、氏家嘉作、宅島橘雄の六氏と外に淸人三名、其事は高瀨氏、工事は本月竣成の豫定なり、

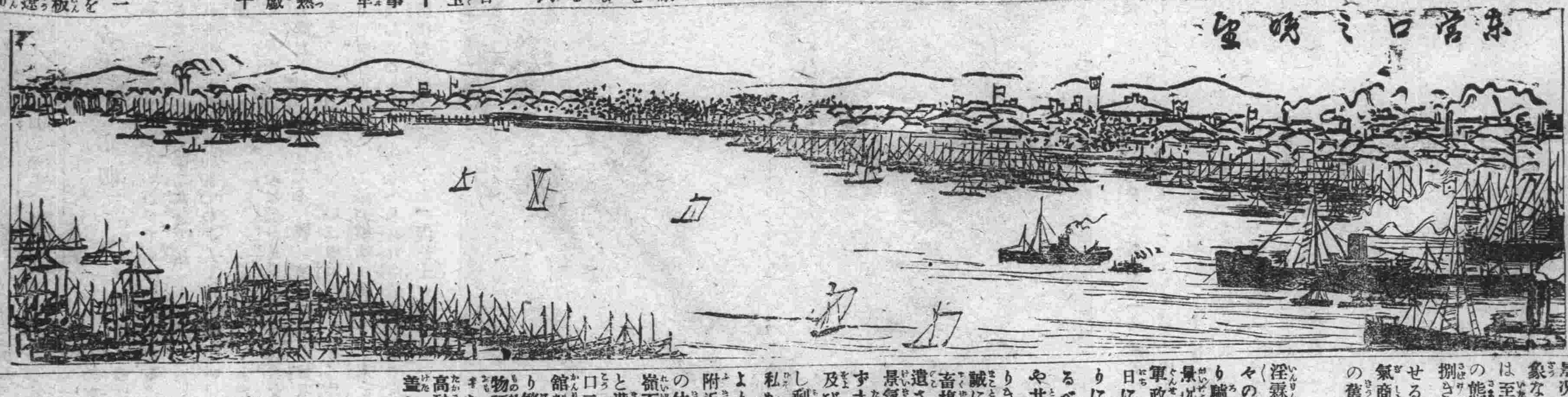
▲旅順と健康　蓋し旅順は滿洲一の健康地也、北に山を負ひ南に波靜かなる港灣を控へ、排水の備へ自然に成りて日あたりよし、時に腸加答兒、麻剌利亞等の患者あるも風土病なし、それて醫師が十名藥舖が八軒、

▲白玉山の忠魂碑　旅順難攻の紀念、日本武士が櫻と散りし忠實勇武の紀念、白玉山上忠魂碑納骨堂の建立や大によし、二十二万圓の工事費總べて同胞の寄餘、其工事今は六分通り成る、吾人は竣工の一日も早きを祈る、

▲總督歡迎會　は總督に對する市民の熱誠に起る、當日は公園に園遊會を開き演戯及び藝妓の演舞もある筈、費用の豫算二千圓なりといふ、

●遼陽通信
綠城生

▲日本人會は軍政の撤廢に連れ本月限り一先づ解散し同時に此種の團隊日淸倶樂部を設けるやにて日淸倶樂部創立事務所の看板は麗々しく日本人會事務所に掲げらる▲遼陽婦人會は八月初旬に組織すへく有力者間に計劃せらる其主旨は世上に有觸れたるものと大差なく唯賤業者流を加へず純潔なる婦人のみを以てし外出の時は徽章を附して一見醜業婦と識別良婦人の態面を保ち得る如くなすにありと云ふ▲大連彩票は近來日淸官民に歡迎され票の賣行好況なり彩票



營口之眺望

は官許として咎めざるもチーへは依然流行するもの〻如し▲停車塲に於ける客引の弊は旅客を瞞着するにあれとさりとて遼陽の如く客引のなきは亦旅客の不便此上なし雖遼塔ホテルは一名の客引を派し旅客を吸收しおれるのみ▲花柳界は近來稍沈靜したる景況なるが這は炎熱の季節として當然の現象なり▲夫れに引換へ小屋掛のビヤホールは至る所に雨後の筍同樣孰れも却々繁昌の態なり▲然るに雜貨商は他の地に比し賣捌き好く流石師團の所在地として他に出色せるは此一事に徴して卜すべし要するに堅氣商人の氣配は昨今緊整して狂躁浮動戰時の舊夢より脫せるもの〻如し

●鐵嶺通信
鐵城生

淫霖たる細雨蕭々として鉄嶺の山は唯白濛々の裡に封じられ、帆檣林立する柴河の上り驢馬牽く野夫の姿憐れなり、鐵嶺市街の景況亦た此の如し、熱心親切なりし故川崎軍政官と其屬僚とに率ゐられて兎も角も今日に至るの礎を置きたる在留同胞は今月限りにて沈痛重厚なる橋口軍政官とも別れさるべからさるに至れり川崎中佐や橋口中佐や共に在留民が父兄と仰ぎ親しむ教導者なりき、市民が愛惜の情に耐へさるものある誠に所以なからずや、且つ商品陳列館、居留塲及び輕便鐵道の三事業何れ市民の手に遺され同胞が經營の下に委ねらるべく、不景氣の叫聲巷に反響しつ〻あるにも拘はらず大連、營口等より移住し來る旅館料理店及び雜貨店は日に增し奸商輩取り連は橫行し剩さへ馬賊超梁の兆あり、心あるものは私かに前途を憂ふるも旅行規則撤廢されてよりは往來の客多く此處に足を止め、營口附近よりトぼり來る醜業婦亦た此處を一時の休息所と心得てか、今の所市の繁華は鐵嶺万歲を謳はしむ、而も物價の低廉なると滿洲第一にして、戶數約二百四十五人口二千二百中に婦人總數八百三十あり、旅館料理店は九十あり上記の理由にて可なり繁昌す、營口出身美人の失戀物語、後悔物語を聞くは面白し、因に云ふ當地旅館の主なるものは鐵嶺ホテル、彌生館、顧屋。高砂ホテル等にしてコンフオテーブルなり蓋し鐵嶺は滿洲旅行者のオーシスなるべし

祝賀

滿洲日報の一週年を祝して

蓋平　遠藤雲外

年毎に生いそふ竹の色まして
ふし面白く祝ふ新ふみ

やまとから誠の筆のあらわれて
いやまし匂ふすみの色かな

耕南

生ひ出て〻はや一とせとなりにけり
ふみの林のいやさかへつ〻

靜間

つかのまにしけりしけりて言の葉の
文のばやしとなりにける哉

黃雨

世のさまを日々にうつしてくもりなく
よしあしてらす鏡なるかな

國香女史

一年になるてふからのはまちとり
かきゆくあとそ日々にさかゆる

綠園

霜にたへ雪を忍んて咲梅の
操はいかに世に匂ふらん

あし江

人ならば抱きもあげなん御愛子の
今日一年を祝ひまゐらす

失名氏

水莖の跡の流れは幾千代も
遼河の水のすみ渡るとも

つや女

生そめてはや一年となりにけり
ふしをもしろく育つ若竹

展へし葉の去年より廣き芭蕉哉　孤峯
若竹やますら武夫の育ち振り　雲風
日向葵や營口に種こぼしたる　默堂
不如歸もろこし人の夢さませ　奇山
撫子の槃に見せけり唐大和　柳意
鬼あざみと姫なりと咲け百合花　千曲
炎天に晒されて肥る瓢か南　自薫
文思わく滾々の清水とほき申　仲六
よき種のよき根を持て草牡丹　小僧
ほと〻ぎす東三省の眼さめ草　仙橋
今年竹虛心直節只のひよ　茶亭
美しう文字摺草の花さきぬ　野梅

滿洲名所情歌

くのじ

營口
妾の心と遼河の水は
百年待てども澄はせぬ

遼陽
雲に聳ゆるブノ白塔も
鳩の雄雌の巣ぢやないか

奉天
愛親覺羅の遺業を訪へは
瑠璃の甍は草たらけ

鐵嶺（古の銀州の地）
昨夜胡姬の待遇振りに
醉ふて忘れたあの寶刀

昌圖
君の行衛を追はんとすれは
憎くや白雪足跡鎖す

旅順
思ひ出すのか涙の種よ
國の爲とはいひながら

大連
早く年明き手に手をとりて
滊車で洋行がして見たい

安東縣
國の境の鴨綠江も
末ぢや墨堤になるであろ

敷島　オリエント　大和　スター　朝日　ロングライフ　ほまれ　チエリー　福壽草　リリー　白梅　ゴールデンバット　さつき　あやめ　はぎ　紅葉

營口西北街　日本官煙營口專賣處　電話一〇一番

滑稽落語 **女房の頓智**

來々亭看々講演

エーツ御當社一週年の御祝に就きまして落語家仲間の相も變りませぬ天明風の笑話も如何かと存じまして趣向は少〻お古いが處〻新らしく燒直しをしまして手前共同樣下等社會の極〻瑞話のを一席伺ひます。○

場所は神田八町堀でトアル町內に鮮魚商渡世を營して居ります幸吉さんてエ方が有りまして女房と二人暮して至つて細い煙をたてゝゐられました、尤も私共仲間のものとて大した煙をたてゝゐる譯では御座いません………讀者諸君が煙突位の煙をおたて遊ばすと手前共は線香の煙しかたちませんので………へイその女房と申しますのは至て貞操で亭主思ひで御座いますが亭主野郎の方は兎角懶惰で加之に酒嗜で朝から晩まで間がな隙がなグビ〳〵連飲で管を捲くものですから近所隣りの人達がグビ幸と綽名してゐます位でありますから商買の方へは少しも身が這入りませんので………勿論魚屋渡世を營してゐますと申しました處が店には乾枯びた串鰯が二三把も駢べてあるやなしで日に增し財政困難に陷るばかり、女房は大變心配して日每に意見をするのでありますが御當人たるグビ幸さんは馬耳東風とやらで頓と聽入れる模樣がありませんので女房もホト〳〵閉口してゐられました。

邊の濁酒屋で少からぬきこしめしたと見え或晚夜更けてグビ幸さん例の通り柳原川岸鼻唄交りの上機嫌で我家の門口をヌッと這入つて參りますと豆ランプの下で針仕事を做て居ました女房のお關さんがおせき「幸さん今時分まで那邊を烏鷺ついて來たの併しマア、感心に自身の宅を忘れずに還つて來たとネ幸吉「戯談言ちアいけねヘ世內にはお關の方てエ可愛い奥方が在せらるゝからな何程醉拂つたつて浮氣なんかするものかア へ、、、、、(急に聲を潜めて)時にお關戸締は良だろうな實は俺は今夜拾得物をして來たのだと、ニコ〳〵腹掛丼の中から柔皮の財布をば握み出しまして幸吉「お關那麼に呆れた顔をせずとも開けて見ねエシコタマ札が有せるせき「オヤまア良人は本當に紙幣を拾つて來たわ大變のとになつちまつた………幸吉「愚圖〳〵言はねえで早く勘定して見なヨ若干有るか………せき「五圓札が十枚で五十圓さ拾圓札が五枚で五十圓都合百圓有るよ、幸吉「ヒヤア百圓あるタて百圓たア百兩のとだらう急に素破亂しい大富豪に爲つたア難有てへ〳〵コウお關這樣に俺達が俄大盡にお成り遊ばし奉つたのだから將來手前なんぞも那麼樣に身窶らしい襤褸なんか纏げなくつとも三井や白木屋にでも注文して錦襴でも緞子でも搆ふとは無ねからドシ〳〵買つて着ねてえとよ俺も明日からア魚屋の幸吉旦那樣おや日頃グビ幸〳〵と綽名す友達甲斐の無え野郎共の見せしめに朱檀か黒檀かの天秤棒を脊負て魚河岸に買出しに往つて遣らア篦棒奴………おせき「夫左樣と幸さん這樣話を若しも泥棒が立聽すると惡いから今夜は妾が預かつて仕舞つて置くよ、幸吉「左樣して與んな〳〵夫れから前祝でもなく拾祝に一寸一杯遣りていが家には喰へさうな肴が無ねからお汝大通の魚十へ走つて何か見繕て來ねエ此節の鮪なんか食へたものでないよ序に横町の伊勢竹から鰻の中串を十人前許り………何か手前温飩が嗜だな、歸りがけに更科へ釜揚を二三十誂へて來ねエ………夫れから酒だ角の大坂屋から灘の生一本てエ優品を一樽擔ぎ込ませろイーか合點か………女房は好い加減に聽流して出て參りますと程なくお誂の酒肴が來るとグビ幸殊の外恐悦の体で下地のある上に一舛ばかり煽つたから堪らないヘベレケの坂は速に通り越して海鼠の樣に泥醉つて前後白川夜舟と寢入つて仕舞ました。

翌朝九時頃になりますと幸さんは目を擦りながら煎餅蒲團の中からニユッと毬栗頭を差出しまして、幸吉「宿醉で頭が割れるように痛ね、おせき迎へ酒を一本浸て與んなせき「早朝からお酒を呑むなんて呆れて物が言へないよ昨夕なども左樣だつけ外でさん〳〵醉拂つて歸て來て鯛の刺身だの鰻の丼だの柄にない贅を言つて一舛ばかりペロリと平げてさ、幸さん一体アノ勘定は甚麼する積なのお酒共に大枚三圓も掛てゐるよ幸吉「勘定は何程有らうとも搆ふとは無ねアノそれ拾つて來た百兩の內から拂ひねエせき「拾つて來た百兩とは一体夫は何の事かえ妾には皆目判らないワ幸さんお前さん夢でも見たのではないか早く起きて顔でもお洗いよ………女房は空嘯ひてゐるのですから幸吉はムツクリ蒲團の上に起き直つて這樣腕組をしてヂツと考へ込みましたが何分にも昨夜のとは金を拾つたと思つた計も素的に酩酊してゐますし歸宅てからも鬼殺てえ奴をさん〴〵暴飲たので何が何やら薩張り記憶が有りませんので矢張り女房の言ふ通り夢であつたのかと初めて氣が附いたのか猿芝居の十次郎見たように思案投首切りと青い息を吐いてゐました。

女房は横合からヂツと良人の態度に目を着けてゐましたがグビ幸此處に到つて大悄氣に落膽てゐますので少々氣の毒になつて來「幸さんお前さん那樣心配おしならもー一度四谷の親父に泣ついて此の勘定だけは辦濟しようが其代り幸さん妾が一生の御願だから自今三年の間キツパリとお酒を禁て而して一生懸命稼いでお呉でないか………幸吉は我身の放埓を悔悟の矢先であるので否應の有らふ筈は御座いません、幸吉「夫おやアおせき氣の毒だが何卒都合して來て與んねエ………と極り惡る氣に賴みまするので女房も快く、おやア幸さん早速往つて來るよと身仕度もソコ〳〵軈て電車で一と走りして參りまして、幸さん只今歸て來たよ茲處に十圓あるから勘定した殘りはお前さんの商買の資本にして下さいな………幸吉「毎度濟まねえな手前に厄介ばかりかけて………流石のぐび幸さんも今日といふ今日は全く改心したと見ゑまして直ぐと店に飛び下りまして盤臺を擔いで河岸に買出しに參り久し振りに乾枯た店先へ新鮮の佳さうなのを五つ六つ駢べまして自分は又殘りの小魚を擔いで今迄無沙汰をしてゐた得意先を詑び廻りました、幸吉さん根が正直で氣輕な男ですので得意先の氣受けも惡るくないので忽ち賣り盡しまして夕景頃歸宅て來ましたが嗜な酒は一滴も頂きません其翌日もその通り………三日四日と眞面目に稼ぐにつれて段々と商ひの方も面白くなつて來ます僅か一月經つか經ぬ間に少さいなりにズツと身上を持ち直しまして少し位融通がきく樣になりますともう占めたもので、テンで嗜な酒のとを思ひ出しません酒屋の門も遠慮して通る位……左樣なると益々稼ぎの方に實が入りまして前非を悔るの念が燃るが如く萌して來てア、惡かつた從來の信用を恢復には今少し稼がなければ追不上ないといふ處から晝は終日鮮魚を商ひますし夜に入れば盤臺を溫飩荷と取替へて終霄下谷邊に鍋燒温飩を賣り歩くてふ大勉强………近所隣りの惡口屋まで「あのグビ幸は近頃怎樣した風の吹き廻しで簡樣な眞面目な男に生れ替つたのやら」と七不思議の一つに數へる位………女房の喜びも一と通りや二タ通りではありません、夫婦呼吸を揃へて眞黒になつて立働くとてろ外目にも羨ましい位てありました。實に光陰に關守なく歲月水の如く流れて丁度幸吉さんが眞面目に成てから三年目の暮れには從來の借金を殘りなく辨償して彼是二百圓近くの金をば貯蓄銀行に預ける身分と相成りました、讀者諸君方の二百圓はほんの目腐金でありませうがボテフリ商人の二百圓は實に莫大な貯金で來々亭などは二百圓の貯金は扨措き反對に二貫の貸人もありません閑話休題まして幸吉さん大晦日の日にて未起から盡く得意を廻り終ひまして午後四時頃になると床屋から洗湯を了つて歸つて來まして自分で神棚に御燈明を捧げて長火鉢の側で久振で延び〳〵と足を出しまして「障子は張れるし疊替はするし借金取りなんかは獨りも來す近頃に無ね好氣持だ」と獨りホク〳〵悅に入つてゐました、折しも勝手元を働いてゐました女房のおせき、良人の歸宅をきゝつけて襷を外しまして二種三種の肴を取揃えました食臺を運びまして湯沸の中で一本熱燗をつけて杯を良人に差し、せき「今日は少と心祝のとがあるから厭でもあらうが一杯呑んでお呉れ………幸吉「俺は以前から禁酒してゐるぢやないか心祝とは一体それりや甚麼、女房は神棚の隅から一の革の財布を取り出しまして「幸さんお前さんこの財布に見覺があるでせう、實は三年前の暮にお前さんが拾つて來た百圓のお金だよ………幸吉「エーツあの夢かと思つた………せき「矢張り夢てはなくつてよ本當に拾つて來たのだけれど幸さんの當時といつたらグデン〳〵に泥醉つて百圓のお錢を拾つて三井か岩崎さんの樣に大金持にでもなつた氣で其晩から大束を振蒔かふとするのだもの百圓は愚か一万圓有たつて十万圓有つたつて穀ツコなしだわ、其に幸さんお上にはちやんと御規則が有つて若しも拾ツたお金を猫婆にして遣はふものならソレこそ大變直ぐと懲役に往かなきやならない、其時お汝さんに其樣譯を話した處が到底も駄目だと思つたから妾は四谷の親父に潜と相談して來て直ぐと神田警察に屆けて了たノ、スルト丁度滿一年目に四谷の方に遺失主が知れないので下げ渡しになつたの、今日といふ今日までお前に內證にして措いたは重々妾が惡かつたがこれも皆お前さんの爲を思つて做たとだから何卒堪忍して甚麼になりとも任意に遣つて下さい心祝とはこの事でそれで今日は是非一杯飲んで貰ひたいノ………幸吉は嬉し涙と水つ鼻汁を一緒に飜して默然てこう財布と女房の顔を七分三分に注視て腕組をして考へ込んでゐましたが幸吉「イヤ飲むめエよ再泥醉て夢になると困るから………(完)

祝國勢發展第二年

第一營口ホテル　旅館部
第一樓　料理部

店主　山縣光雄
電話八拾四番

祝營口軍政二週年
祝滿州日報一週年

營口元神廟街
金城ホテル
店主　斉藤冨次郎
(電話八三)

營口に於ける軍政の一週年

營口は遼河口に位置して滿洲物貨自然の排泄口也、故に苟も滿洲內地に對しては其政治、外交、交通及び商業は論するまでもなく軍事上の行動に於ても亦た實に重大の關係を有す、是れ一たび滿洲經營に志すものゝ必ず此處に其の周到なる用意を施す所以なり。

此に於てか去る卅三年北清に拳匪の動亂起るに際するや、已に業に遼東半島を租借し極東に不凍港を得西比利亞內地と相連結する東淸鐵道を布設し、並に其支線を營口の上流牛家屯に延長し全く其自養的侵畧の途を開き得たる露國は、此機會に乘し更らに極東總督の手下より一隊を派し名を滿洲治政の保護に藉りて營口に駐屯し、且つ其の釐金局を占領し軍事行政官を置き營口占領を實際にせり、日露戰役に於て我が軍の大石橋を屠るや直ちに一部隊をして營口を占領し直ちに軍事行政を施行せしめたり、是れ共に營口を占領すると否とが滿洲內地に向つてする政治上、商業上に甚大の影響あるが故に軍事行動を保護し之れを助長する爲にする必然の要求に從へるものならずや、此故に此等の實例は偶ま以て營口の地が一つの承諾を與へざる限りは如何なる妙案も以て滿洲內地に施す能はさることを證明する最大の辯論ならすとせんや、

露軍が宣言せる撤兵時機に於て恰も在滿洲諸軍の示威的大觀兵式を擧行し、更らに撤兵を實行せざるや日露國際上の大談判は開始されたり、而して三十六年の末期よりして三十七年の初に亘り談判愈ゝ急にして風雲頻りに動き營口の人心亦た頗る恂々たるに及んで、露人は俄かに其駐屯兵を將て行軍遊動し軍容の壯を示し自から甲兵二萬と稱し、且つ驕傲なる其特性よりして小日本克く何事をかなし得んやと恃むへからさる其の軍隊の虛名を恃み、頻りに日本の弱小を吹聽して曚昧なる清人を欺むき自大の外人等を喘着し單すら人心の鎮撫に努めたり、事態斯くの如し故に當時の營口は官民共に時局に對しては極端なる樂觀者にして尙は聞くが如くなれば營口に在りし露國民政官も領事も共に何れも三十七年一月六日を以て日露國交斷絕の通牒交換されたることをさへも知らざりしと云ふ、是に於てか二月八日に於いて東鄉艦隊旅順港を夜襲し露艦隊敗退せりとの報十一日に到り、九日仁川港外に於けるワリャーク、コレーツ二艦被沈の報十三日に到着せしも、在營各官憲は我が瀨川領事を除くの外一つとして是を信ずるものなかりし有樣なりき、既にして頻々として到る各種の情報が日本軍進擊の猛烈に狀況甚だ不利なるを云ふに至り薄弱なる示威的行動と盲目的大膽とによりて僅かに人心を鎮め多少の信賴を受け居たる露國の行政官は、此の時狂瀾の荒るゝか如き人心の動搖を如何ともし難く唯だ茫然としてある程に我か大孤山上陸軍と鹽大澳上陸軍とは其鋭鋒を磨しつゝ秀巖を占領し得利寺を陷れ敵の旅順救援軍をして海城方面に退却するの止むを得さるに至らしめ更らに進んで大石橋を屠れり、事茲に至りては露人如何に暢氣なりと雖も遂に狼狽せさるを得す乃はち營口居留の露人等は蒼惶として逃げ仕度を始め軍人軍屬は牛莊の方面に向つて退却し、他の官吏及び商人等は何れも關外鐵道に由りて奉天に向ひ落ち延びたり同時に此の時まで悠然錨を下ろして形勢を觀望し居たりし露國艦船は多く三叉河附近に溯航し遼陽城に其の運命を殉じたり

憐むべきかな暴戾なる露人が營口占奪の夢は斯くの如き見苦るしき狀態の下に破られぬ、されは露人が退去後の營口は草賊所在に起り、殊に牛家屯に於ける露人の造營物は盡くその破壞掠奪する所となり、吾軍の之れを占領せし時の如き宛も燒跡の光景に彷彿たるものありしと云ふ、さる程に營口の秩序は頓に壞亂し容易く恢復すべくも見ゑざりしが幸に米國領事ミラー氏等主として熱心周旋し、露人の使役し居たる支那巡捕を統一し市中一般に我か日章旗を揭げしめ市民をして日本軍を歡迎し併せて其の治下に生命財產の安固を托するの意を致さしめたり、凡そ世間轉變の急速なること戰鬪の狀態に如くはなし、一方營口の騷擾變動が斯くの如くなると共に進擊軍の步調は須臾も止むことなく、二十四日の早朝佐原中尉の指揮する騎兵一個中隊は已に牛家屯の村落を占領し露人の領有せし土地家屋其他一切の軍需品を占領し、直ちに西下して營口に來り軍事的占領の意を明かにし市街の要所に步哨を配布し中隊本部を英國領事館に置けり、越えて二十六日に至り營口軍政官高山少佐の一行は步兵第四十五聯隊の一個大隊と共に到着したり、此に於て滿洲軍總司令部は更らに營口全市街は軍事上の關係により之を占領するを以て退去希望者は速かに退去すべき旨を各國居留民に通牒し、三義廟に在りし露國兵舍を占領して此に守備大隊を宿營せしめたり、此時同時に軍政官高山少佐は即刻より營口に軍政を施行する旨各國官憲に通報し、此に愈ゝ軍事行政施行の幕を下ろしたり是れ實に二年前の今月今日なりき

夫れより三日を經て二十八日與倉少佐營口軍政官として高山少佐に代はりて着任し翌二十九日公式を以て着任の事を各國領事に通牒せり、當時は露人退去し日本人之れに代はり恰も火山の大噴火が一夜の中に地形を變ずる如く、營口市街の狀況總べて其の面目を改めたり、とは雖も人事は繁雜なり露軍去つて日本軍至る其の一瞬の間際は口をして全く無政府の姿に陷らしめき、住民は惶々として適歸する所なく、盗賊白晝に横行し露清銀行の一書記は小伶俐しくも露國領事館に佛國旗を揭揚して俄かに佛國領事となり同盟國の名によつて露人に屬せし一切の財產其他を保護せんと企圖せしさへあり、更らに新海關長は僅少時間に四回も其海關旗を揭げ迷ひたる珍談もあり、混沌として東西南北一切暗黑なりき、かゝる際に直ちに其地方行政の任に方りたる高山少佐及び與倉少佐の任務は遂行すべく甚だ困難なりし、而も軍政の名は一切の複雜をして單純化せしむるを得、與倉軍政官は地方民心を鎮撫し諸般行政上の整頓を計ると共に軍事上の顧慮を按排するに甚だ敏腕なりき、今の營口稅關副長黑澤禮吉氏及び正隆銀行主深見十八氏（當時正金銀行支店の一員）と謀り先づ稅關占領及び其稅金保管の方を立し、以て後日に發生すべき國際問題の紛紜を一擧に解決したり、それより市內の警察及び衛生に關し一應の機關を設けて軍事上の有害分子を平定し、殊に最も當時の患害たりし無賴の外人並に露國の軍事探偵たるものに對し嚴重の制裁を加へ、河北の營口停車場に兵を派して露軍の例に倣ひ軍事的占領の意を表示し、更らに北方數里の地區を占領し我が野戰軍と對抗せる露軍の右翼に對する陸上及び水上の交通を遮斷するに於て、地方人民の商業上の交通を阻害することなからしむるが爲めに數段の苦心を重ねて着々其の果を收めたり、已に一應の施設を了したる時諸般の雜事は紛紛として到れり、雜事繁は即はち繁なりと雖も畢竟雜事たるを免れず快刀一揮直ちに斷ち得んのみ、かくて市民に對する寬大なる行政と綿密周到なる用意とは軈がて市民悅服して一意我が政治に歸復するの境に至り、野戰軍の進んで海城を占領し遼陽攻擊に移れる八月末に及んでは軍政の事全く秩序ある階梯に達したり、而も此時業に牛家屯兵站司令部は開設され碇船場司令部亦た其の業務を開始するに至り、軍政事務は更らに多端となれり、軍政事務の多端となり來るに隨ひ乃はち營口利用の途開くると共に內地商人の入り込み來るもの多く、軍需品は元より他の普通雜貨の輸入亦た人と共に加はれり、是に於て船舶車輛の交通を更らに嚴重に監視せざるべからず、軍政署は市內の行政に充つる人員を割いて又た此れが取締りに任せしめざるべからず、凡そ軍事行政は軍事上積極的目的に副ふを原則とするが故にかゝる事柄に對する施設はあらゆる手段を以て直ちに解釋され、一切の曖昧と一切の獨斷とを嚴査制抑して着々事務を進行せしめぬ

是れより先き七月二十九日道臺文韞來營して就職を要請せり、然るに我が軍政官は此時未た清國行政官吏の就任に關して何等の命令に接し居らざりしかば其の之れに接するまでは道臺の就職を認諾する能はざる旨を答へて總司令部の命令を待てり、やがて軍政官は支那行政官吏就職の事は總司令部より政府を經て淸國政府と交涉の結果營口の行政は暫らく我が軍政に委ねられたる旨の通牒に接せり、是れ誠に當然の處置にして此の淸國政府の健全なる判斷は後日に莫大の幸福を齎きたるものと云はざるべからず、何となれば戰役間戰鬪區域內に於いて和親兩國が兩樣の行政を藉くは動もすれば國際上の紛擾を惹起し易ければなり、且つ此後暫くにして伊集院總領事官命を帶びて此の地に來り國際上後日に煩を遺す惧ある一切の事件を處理すると同時に、瀨川領事亦た復任して外交の事また顧慮を要せざるに至れり

斯る中にも軍政上當然の施設として道路改修、河岸棧橋の築造等土木の諸工事より衛生事項の如き行政上の最も重ずべき施設に關しては、軍政官の緻密懇到なる配慮の下に逐一其目的を達し軍事動作の殆んど完全なる一基點として役立ち得るに至れり、單に軍事的動作とのみ云はず又た實に邦人が滿洲內地に向つてする發起點として唯一の好根據地たるに足るの素質を有するに至れり且つ親切なる軍政官は市民の學事にも配意して露人の創設せし俄淸學堂の組織を改め一切の實學敎育を施すを主眼とし名を英華書院と更め別に營口商業學校を設立し育英の事業を起せり、倘は不整頓なるジャンク貿易に對しても適當に之れを監督して沿岸貿易の隆盛を企圖したり、由來淸國の貨幣には殆んと依るべき組織なくして甚だ複雜を極む、殊に營口に於ては夫の過爐銀なるものありて商取引上甚だ便利なるに似たれども、其のいはゆる銀爐は少資本にて多額の融通を爲すが爲めに一たび破產の運命に際會せんか其の惡影響は全市場に瀰漫するのみにあらずして取引關係にある全部面に恐惶を惹起し貨物の流通を阻害すること夥し、此の故に軍政官は此にも干涉して其發行額を制限し定期乃至臨時の撿査を行ひ以て市場の平穩を策せり、商業上の組織に於いて整頓を期するには一般の戶口調査の如き最も必要なるものなり、軍政署は繁雜を厭ふてことなくして槪畧の戶口を調査し人の出入往來をも規定せり、かくして繁多なる行政上の整理を行ふ傍らには危險の度薄らぐと共に渡來する日本人愈ゝ多きを加ふるに從ひ土地家屋等に對する相當保護の方案をも定め、季節の經過に從ひては陸上貿易に關する障害の除去と其の調査方法をも規定せざるべからず、軍政第一年の中頃冬季に先ちては軍政事務は甚だ繁多なりき（未完）

雨日和　　あし江

降れや小雨ふれや大雨川水の
水かさまりて押流せ世を

さみだれに簑打かしげ柴の戸を
おとなふ人のあらばとも思ふ

思ひ寢の夜の夢の月はかなしや
あかつき方をさゝれ雨ふる

夕雨にものゝさびはとも知らず
そぞろ心に人のてひしき

かにかくに一枝もぞ得しなてしこの
花いたはしう雨ふぶきする

風や雨にかはりぬるらしみじか夜の
人待つ夜半をものの音する

去年のいまを思ふともなく五月雨の
しぶきに濡るゝ旅のまどぞも

ふる郷に母やは我を思ふらし
ゆめに悟めたる夜半の雨音

文苑

雨の夜話（上）　　翠花

電光一閃耳を裂ひて迅雷は恰も屋後より起りたらん如く大震動と共に鳴渡り外は眞の闇奈落の底も斯くやと思はれて物凄く風は魔軍の矢叫びの如く雨は酣戰の急射擊の如く窓硝子を打ちぬ。此所兵站病院一等症患者を收容せる第五號室には篤志看護婦と一人の病將校とは互に眠たげなる眼もて見守りて言葉を交さねは室內はシンとして洋燈の光りのみが隅々まで眩き計り照渡れり雷鳴漸く靜まりたれども雨は尙は蕭々として次第に夜の更くるに從ひ他の看病人等の廊下を步む足音も聞へずなりて他の患者も良く寢入たれとも夢の間も安き心のあらさるにや掩ひたる白布の中より折々煩悶の聲を漏らしぬ、風は益々吹き荒むのみ。

病將校に堪へ兼てや先づ口を開き今夜の如き淋しき夜に明くるまで斯くてあらむは中々に堪へ難し、何か面白き話しあらば話し給はれと云ひ出でぬ。

看護婦は頭を振りつゝそは思ひもよらぬ事妾如き世に疎き者まして牢屋にも等しき病院に暮す身の何とて面白き話しのあるべき

否とよ面白きと限らず悲しきも喜ばしきも或は感ぜしてと見聞せし事何にても厭はねば是非に話し給はれ。

さまでの御望みとならば辭まん由なし、物の數ならぬ妾にも看病中憐れと云ふ事を覺へ初め同情に堪へざる患者につき物語り申さんとて極めて低き聲にて語り出てぬ

時は五月の上旬桃李の花も梢を謝して綠なす若葉と變り人は袷一枚に寒からず暑からず心地よき頃、遼河々口附近の海中に夥しく海賊出沒して航行船舶を强奪し人々安き心ろもあらざるころ一人の患者は入院しぬ年の頃は三十前後憲兵下士の方にて前頭部に貫通銃創を負ひ、色白の顏今は蒼白に變じ眉根に隱し難き曇りのほの見ゆるは母國に遣せる父母妻子か又は何等かの煩悶の潛めるなるべく軍醫の君を待たても妾は其海賊討伐の爲め名譽の傷を負ひたるものと見て取りぬ斯て受持は妾と定まりぬ妾は偏に一日も早く此名譽の負傷者に全快させたしと熱心に看護したれど捗々しき驗も見へず日々同じ業を繰返す內或夜患者の君は夜中寂寞を破りて綾子！綾子と叫び出し給ひぬされど目覺め給ひしには非らず开は譫言なりき妾は魔に襲はれたらん如く驚きぬ、然し君は未だ知り給はざりしならむ妾の名は綾子と呼び侍るなり妾は後ち何を語らるゝやらむと耳を傾けぬ、されど其あとは何事も語り出でざりき。

清国営口永世街
二本町二五五番
塩川商店
電話一三六

各種木材

記號

大販賣

清国営口新日本街
塩川商會出張所
電話八〇九

營口旅館料理店案内　いろは順

料理　入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎

旅館　日營ホテル　河岸通り　店主　井上源吉

旅館　東京樓　營口新市場前（電話二六番、四番）　店主

料理　千鳥　元神廟街百三十三號

料理　吉野　永世街八十六號

亭料理　樂々亭　營口元神廟街

御定宿 第一東京館

奉天小西關第○分局八○一號
館主 松田平四郎

今回緊館組織に大改良を加へ清潔閑静を主として旅館業に罷ら御安穩の御便利を計り內湯新調仕候間御來宿の程奉願上候

祝

營口軍政二週年
滿洲日報一週年

平野町 **都樓**
店主 阪本ちか

祝賀貳週年

營口元神廟街市場前
東京樓旅館
（電話一七八番）

元神廟東海樓橫
東京樓支店 料理部
（電話四四番）
店主 熊田粂次郎

御旅館 奉天館
奉天軍政署指定旅館
和洋御料理
奉天城內鐘樓南大街（電話十四番）

日清倶樂部（電話十五番）
奉天城內大南門裡大街
麵麭製造　西洋洗濯
靴製造　日本大工
理髮　裁縫
氷卸小賣所

謹みて今日の
吉辰をことほぎ奉つる

二年町
祇園閣料理部
祇園閣旅館部
電話一四四番

軍隊用雜貨
日用品雜貨
吳服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
石原商店
營口永世街七十號（第二市場東）
其外新荷着精々安價販賣

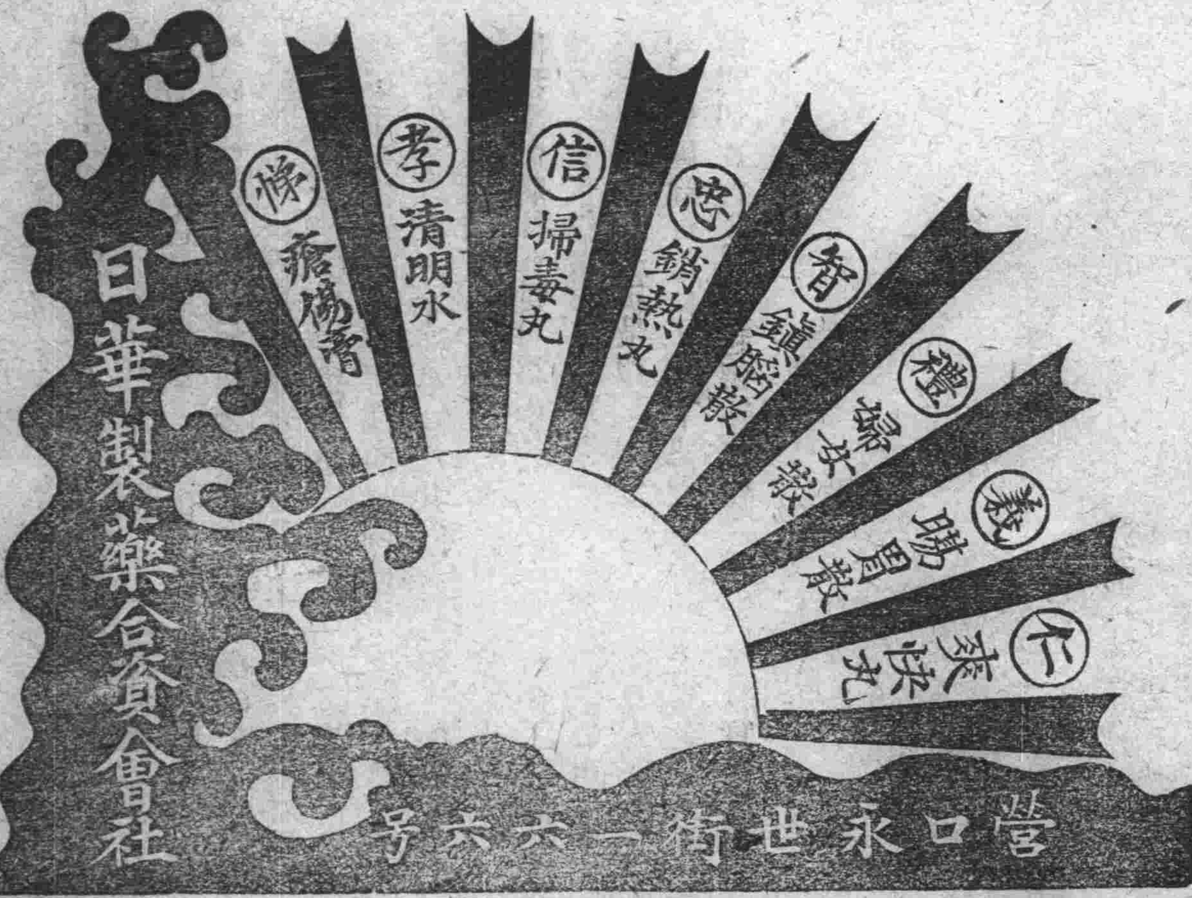
營口軍政二週年と滿洲日報一週年とを祝し併て暑中皆々様の御健勝を奉祈候
營口平野町 **滿月**
滿月支店
電話一六二番

齒科治療廣告

啓者本醫士現將已前之療室從新改築寬敞幽雅俾期與治患之人一般便利而且應症活治療妥善有齒牙之患者幸早惠臨試驗方知本醫士之言不謬也

遼陽西街六十九號
齒科醫士 德平盛剛

救萬治病　八方濟生　神効無比



軍隊用雜貨
日用品雜貨
食料品種々
舶來品類
其外新荷着舶來品精々大勉强販賣
遼陽西門外筋
北原洋行

營口唯一西洋式のホテルにて宿泊料は極廉なり
酒部屋及玉臺理髮所の設備あり
食堂の外休憩所及應接室あり御會談に適せり
大集會御人數百名位の設備あり
遼河々岸
牛荘ホテル
アイスクリーム等の多少に拘らず御求めに應ず
高雅にして見はらし最良の景色に富めり
開業の披露として料理切手一千枚限り發賣す
第一等二圓第二等一圓五十錢第三等一圓

遼陽兵站業務取扱所御指定旅館

遼陽城外喇嘛塔下 **遼塔ホテル**
仝城內□街 **遼東館**
仝城內西街 **滿洲ホテル**
仝城外喇嘛塔側 **浩氣館**
仝城外西門外通 **藝陽亭**
仝上 **遼陽館**
仝城內東街 **東洋館**
仝城內北街 **滿洲館**
仝城外西門外通 **梅廼家**

和洋諸雜貨
食料品卸小賣
各種賣藥卸小賣
奉天小南門ノ後
中越洋行
中越大藥房
但シ賣藥部ハ隨時診察ニ應ス
尚以後吉林長春ハルピン地方ヘ御越シノ方有之上ヘ聊カ御示談申上度義有之候ニ付御都合上御來訪ヲ乞フ

遼陽城內西街
御料理 盛進館
雜貨 井川商會
店主 北ツネ

硝子、陶器、藥種、雜貨、質商、魚菜、ラヂ、檸柑水製造販賣並に清酒金水、龍印特ム約一手販賣其外洋酒類
特にラムヰ及檸柑水は夏季の飲料用として原料を精撰吟味す
遼陽西門外街
林行

新荷着
高等化粧品各種　新柄子キタイ
旅行用鞄及靴　氣發油ランプ
新形夏帽子及鳥打帽子
雨合羽　長靴　姿見鏡　各種
四季造花
婦人用小間物

有
土木建築請負
煉瓦製造販賣
有馬組遼陽出張所
遼陽城內西街
主任 海南右門
雜貨卸小賣

遼陽慈善演藝會收支決算報告

收入ノ部
一 銀二千一百二十圓五十九錢　總收入高
內譯
一 銀千二百九十圓　入場券一千二百弐拾枚
一 仝三十八圓五十錢　仝半額券七十七枚
一 仝六十五圓○五錢　衣裳其他諸雜品賣却高
一 仝四百五十二圓六十錢　寄附銀高
一 仝二百七十四圓四十四錢　特別寄附銀

支出ノ部
一 銀一千九百六十七圓八十七錢五厘
內譯
一 仝六百六十一圓三十七錢五厘　演藝費
一 仝七百四十二圓六十錢五厘　設備費
一 仝一百六十五圓六十四錢五厘　來賓接待會諸雜費
一 仝二百九十五圓二十五錢　餘興費
一 仝四十圓　出演者紀念品贈與費
一 仝十五圓　決算廣告料
差引殘餘銀一百五十二圓七十一錢五厘
內
銀一百圓　米國桑港震災救助義捐
銀三十圓　東北饑饉救助義捐
銀二十圓　臺灣震災救助義捐
銀二圓七十一錢五厘　郵便電信料及爲替料
右之通りに候也

遼陽慈善演藝會委員長 林堯賀
仝 中村松之助
仝 杉原正倫
仝 溝上巳之助
仝 田川吉代
仝 遼東館
仝 太田保作
仝 西野治三郎
仝 早田ジヨウ
仝 小野幸次
仝 高橋虎之助
仝 高田雄民
仝 安東貞元
委員 海南右門
仝 谷口今朝太郎
仝 井上傳壽
仝 八尋芳平
仝 山本新吾
仝 片岡後三郎
仝 上松榮次郎
仝 北ツ子
仝 小林八重松
仝 梶山德八
仝 高瀬政吉
仝 遼塔ホテル
仝 向井龍造
仝 江口國太郎

一 銀四百五十二圓六十錢　寄附銀者姓名
內譯
五十圓 某官衙　三十圓 某官衙　二十圓 青木洋行　二十圓 農園會　二十圓 海南右門　二十圓 小野幸次　十九圓 稲榮洋行　十五圓 某官衙　十五圓 遼東ホテル　十五圓 林堯賀　十圓 劇場內賣店　十圓 安東貞元　十圓 某官衙　十圓 遼東館　十圓 西野治三郎　十圓 鮮知州　十圓 高田雄民　十圓 向井龍造　十圓 某洋館　十圓 藝陽館　十圓 山本新吾　九圓 和田惠吉
八圓 于沖漢　八圓 王想熙一　五圓 諸石官　五圓 江口國太郎　五圓 八尋芳平　五圓 井上傳壽　五圓 小松德松　五圓 某衙　五圓 犬飼大助　五圓 富官章　五圓 淸上巳之助　五圓 上松榮次郎　五圓 谷口今朝太郎　五圓 盛進館　五圓 馬目某　五圓 岸平某　三圓 德盛剛　二圓 橫便某　二圓 郵便局某　二圓 太田保作　二圓 經理部某　二圓 片岡某
前項寄附銀分

一 銀二百七十四圓四十四錢　特別銀品寄贈者姓名
泰雲館　有馬組　藝陽館　營口某婦人　山本洋一　宮川福一　髪結テル子　武井洋行　稲榮洋行　井門洋行　渡洋行　美作組　共同商會　前川宗七　捌荷洋行　關東陸軍倉庫　林洋行　近藤銀作　山本寫眞館　青年會慰問部
林洋行　捌荷洋行　金剛谷　三谷新七　長濱和吉郎　宮田銀次郎　髪結トミ子　青木洋行　北野洋行　向井洋行　加藤シヨウ　川上房市　北原商會　石光洋行　岡本寫眞館　遼陽支庫　柳田洋行　有馬組時計部　本願寺慰問部　三益洋行
遼東館　盛進館　足立洋行　近藤鑫作　滿水精次郎　金森貫一　野口洋服店　永順洋行　代ろ木商會　口井洋行　有本ステ　杉本心一　井門洋行　日本洋行　釀造組　川三部　向井洋行　大東洋行　高田洋行　池上出張所
次第不同
前項に不載分

論說

滿洲日報週年紀念記

古者史載筆士載言瞽叟載誦命太史陳詩以觀民風 軒所至博採旁搜忠臣孝子之謳吟學士大夫之諷詠下逮思婦勞人之作虫魚鳥獸之篇無不列之明廷攷其得失凡所以驗政治之可否民心之向背古先王於玆加之意焉自時厥後王迹熄而詩亡周轍東而紀綱墜易世代興互有沿革於斯民之情愫閭閻之隱憂盖闕焉而弗事講求者久矣方今五洲各國生存競爭優者自勝劣者自敗天演之現象有日加精進而不能自已者况二十世紀列強進化瞬息千變誠古今未有之奇觀文明進步之極點也而推原其故大旨不外乎兩端曰演說曰報章查演說一派列於哲學雖空言立論而入人最深程效甚速不啻由黑闇之中遽引之於光明之域至報章一事尤爲各國所注重其自都會商埠以及城鄉村鎭凡名區勝地無不設有報館發布報章所以宣上德通下情開風氣助文明胥於是乎在中國之有報館始於滬上之申報此後相繼而起者殆不乏人目今各行省報館林立風氣日惟滿洲三省爲中國發祥之基龍興之地民智蔀塞較甚他省本報主人有鑒於此故有滿洲日報之創設自去歲刊布發行以後頗蒙大雅君子鑒賞歡迎售報之數日益有進雖然更有說焉滿洲三省東接朝鮮北連俄羅斯俄人素以進取爲宗旨每挾其虎視鷹瞵之勢力以佔滅人之國土侵奪人之利權日俄戰畢銳氣雖消貪心未死尙思有覬覦南下之勢第怵於日軍之威未敢旦夕妄有所動然滿洲三省終爲此後多事之地可斷言也且本報之設以開通滿洲之風氣兼啓滿洲人民之智識爲要點故於內政外交以及世界可驚可愕之事羅舉不厭其詳他如俄人陰險之行爲猛鷙之手段本報於斯愈不憚三致意焉若云振聵發聾自居先覺之責本報則何敢僭惟是一載於玆議論必擇其純正事實必期其詳備聞見必求其確速如此始足盡報界之天職而無愧本報不敏曷敢讓退不遑弗力斷改良進步乎矧此後本社報章尙擬逾格發展逐漸增多故有益於滿洲境內之事項有裨於滿洲人民之開通者必擇之精而語之詳以全力餉滿洲三省之人而稍覺可慰其初衷也論者其以本報爲益智粽饋貧粮乎然而本社報章之目的則始終未有以易焉耳

遼陽專電

(西七月二十五日上午十鐘發)

●仙波少將回國 駐遼陽步兵第三十一旅團長仙波少將日前調任爲第十八旅團長奉天將軍趙次帥特爲少將設祖道之宴因之少將於西七月二十三日由遼陽赴奉天列其筵本日啓程由安奉鐵路經韓國回國就任云

大連專電

(西七月二十五日上午十鐘發)

●匪徒襲貔子窩

日昨有匪徒一千餘名成群結隊襲貔子窩掠奪官金十萬緡中日巡捕雖互致力掃蕩然彼衆我寡勢不相當從討伐者却或死或傷餘衆僅以身免匪徒勢益猖獗所在放火燬家恣意掠略並聞普蘭店東南三里有東東房匪徒又襲日本巡捕處四人中殺其三人 拿其孀婦及日本婦女若干名不知其所之云

鐵嶺電

(西七月二十五日上午八鐘發)

●受領鐵道委員啓程 第三次日本受領鐵道委員員長中村少將以下委員均於西七月二十五日由鐵嶺啓程赴長春按日本嚮據日俄平和條約長春以南鐵路一併歸其手而前後二回之交涉未能全經收受故特派第三次受領委員收公主嶺以北鐵路也

倫敦電報

(西七月二十四日發)

●俄國宰相更任 據俄都來電云日前該國首相哥列穆公君乞骸骨刻已得允特陞內務大 斯多利賓君爲首相襲其後云

●俄國叛徒再起 在俄國苦倫斯達多軍港叛徒又蜂起今現在與守備隊交戰中云

中外要聞

●俄握外蒙古幣權 近來中外報章紛傳俄國擬在烏里雅蘇台開設華俄銀行發行鈔票以壟斷利益之說世人信爲的確然聞確實消息云俄國上年業已在烏城開設華俄銀行鈔票而該埠商民亦樂用之而不用銀幣故俄人乘此以鈔票收買通幣販運于庫倫俄國等佔以處益利然愚昧商民仍未覺悟通行靈便以致該埠銀錠逐日減少如不速講抵制之策則俄國鈔票充滿于市面以致商務敗壞不可收拾我國商民爲受大虧矣又聞庫倫市面亦如斯華俄銀行所出之鈔票市面比比皆是漸次驅逐銀幣以致多利權爲俄人所把握云

●日本駐津領事將回國 日本駐津伊集院總領事月前告假回國玆據津函云該總領事現已啓程回津可於下月初十日前後來津聞伊集院總領事來津之後將經手事件辦理清楚再行回國按伊集院總領事駐津多年遇事和衷共濟以敦中日邦交爲宗旨於東亞大局頗有裨補然現奉命將卸任實可爲中日邦交惜矣

●查覆台吉搶案 日前理藩院奏科爾沁圖什業圖親王旗呈報本旗台吉聚衆勾通鬍匪肆行搶掠請飭下盛京將軍趙爾巽切實查辦現聞趙留守查覆之摺業已進呈

直隸總督袁世凱氏

●出洋大臣之位置 探聞澤戴端尙四大臣返京之位職澤公則充攷查政治館之首領端方則仍歸外用以期內外兼通共籌新政而鴻慈有兼入軍機處之消息尙其亨之內用與否尙未有聞

●江浦路請併案辦 聞有職員謝則濂上商部稟請承辦由安徽至和辦鐵路請歸開封海州併案辦理昨聞商之部意擬俟海滬嘉一路修竣告成再行核奪

●電飭訪拿奸匪 聞政府日前電致鄂督張香帥略云湖北地方因米價騰張黎民搶掠商店一事其中難免有匪徒煽惑從中起事深恐釀成巨患亟宜派兵前往嚴密訪拿以杜匪萌而弭隱患

●咨設寧夏學堂 寧夏將軍色普徵額咨學部略稱擬在寧夏滿城設駐防中學堂小學堂一區所有經費即將額馬酌裁撥馬乾銀三千五百兩作爲該學堂經費一切課程均按奏定章程云云

●紀僞印紙幣案 署理江蘇臬司某廉訪之公子某太守擅印紙幣蓋印行使一事已錄前報玆悉現在已由南洋大臣特派候補道二員赴蘇查辦務須徹底追究以重財政據官場消息云南洋大臣查實後必將專摺奏參

●銀公司承辦九廣路交涉 有銀公司代表人某君已於月前來京現仍寓在京次造訪唐少川侍郎磋商九廣鉄路辦法請按照中英草合同歸于銀公司承辦然岑宮保雖允認由英國購買鐵路材料聘請英工程師建造以歸中英合辦然未允歸銀公司承辦現雖由英領事及銀公司代表人在粵督及京師興華官屢費磋仍未見定奪云盖近有九廣鐵路交涉已見了結實係謠傳毫無實據

●德國傳中俄議約消息 聞德國來電云中俄議約遲延數月迄今未有一事定奪據德京外交界消息係因俄國邀求蒙古利權聞俄國政府雖允認中國要求肯歸還鑛產並撤退軍隊然向中國邀求劃定中俄疆界以爲代償因中國未允改定中俄國境俄國亦未允歸還鑛產等事盖俄國所以願改定國境者於東三省地方已有日英美等國提倡開放主義抵制俄國不令其再長奢望故俄國已絕侵略之志於東三省因改定中俄國界欲詐瞞中國委員進佔清境以爲桑榆之計也執筆人云此說確否未得而悉然德國外交界已有此消息俄之垂涎于邊疆實爲各國所共認如政府諸公不速設法鞏固邊圉一旦告警茫茫數萬里鞭長莫及西鄙一帶亦非中國有矣

●蠲鉄路租界佔地納稅 盛京將軍趙次帥致戶部電內稱牛莊遼陽鐵嶺等城鐵路佔用地畝四千六百八十畝開原蓋州熊岳復州等城鐵路佔用地一萬八千三百三十四畝復州劃入租界地六千三百五十八畝所有該鐵路及租界佔用地畝一律請援津蘆成案蠲免徵稅等語聞戶部覆電令趙次帥奏明辦理

●請保護俄敎士游藏 聞有俄教士多名前往西藏遊歷電請由俄使照外部轉飭駐藏辦事大臣有泰於俄教士游歷地方妥爲照料勿使番情猜忌致生衝突

●改良南滿洲路欵 東報云官場消息日本政府現已決計擬將東三省鐵路一律改良以靈便交通其需欵估計七千萬圓之譜聞其內容略云東清鐵路路綫一律改造其需欵估計一千萬圓既改路線須改火車其需欵二千萬圓又政府欲添設車站且改良大連碼頭以聯絡水陸之交通而其一切經費估計七百萬圓其外改築安東抵奉天鐵路之路欵計共三千萬圓之譜而其餘改良工程欵項決匪淺鮮云

●日本設駐粵領事 目下日本官商僑居粵省者逐漸加增已有數百名之譜而該地無日本領事署由香港領事署保護頗有不便之處故日本政府決計擬於西九月初十日在省垣開設領事館辦理通商事務並保護僑民

●韓皇讌宴不能自專 亡國之君久仰保護不能自專公例也專制亡國之君以專制之極而使其不能有自專之時非但公例所同然抑亦天理所應爾何者地球上獨立之國以六十餘數計而以專制國幟飄搖於大地上者窮日之力現不過得三數家專制運命岌岌可危其不能再延壽命於此廿世紀中稍明世界局面者固無不洞若觀火聞此等專制君主偏以屢世自專之幸福不可及身而低首論亡大有寧失諸侯人不可失諸家奴之見解於是專制君主之毒燄非俟諸國亡之日斷難望自戢其兇烽嗚呼時日曷喪及汝偕亡專制國之國民固延頸企踵以冀其君之有不能自專之一日久矣民心即天心夫誰叫爾於國家未亡之時不順世界之大潮流而渡其國境於立憲共和之地位乃竟以專制亡國也乃章以竟制之極而反至不能自專也天理循環報應不爽快哉快哉公法以取人不能自治之國而代治指爲無背於公理其殆比物此志哉 他姑勿論若韓皇則最近前車之覆轍也自中日甲午罷戰以後亦幾爲日本所提挈脫藩屬之羈絆而躋諸獨立之國境矣中國與之同病相憐區區三韓貢物尙無福享承斷不虞其有併吞之一日至於俄日則儼如兩虎相同磨牙吮血逐逐其旁韓皇雖愚想亦不無聞見苟於甲午以後發奮圖存採取歐美強國之要素不私國家於己盡歸國權于民日與一千萬韓民一德同心共謀變法夫安知日本變法三十年而足以强國者朝鮮變法十年而不足以圖存乎即謂世界祇有強權並無公法而以非獵濱之一帶羣島尙能與美抗戰數年以脫蘭思哇之八十五萬人猶與英相持數載况韓自箕子開基以來古國數千年人民一千萬地勢險要面積八十四萬九千方里而又新樹獨立之旗爲地球各國所公認脫令專制早除君民共主吾恐俄日雖强度無有敢先爲發難者即一國甘爲戎首而幾見立憲共和已定之獨立國其終受隸於他人國旗之下哉故韓之亡非日亡之也自亡之而已韓皇今日之不能自專非日制肘之也專制之自制其肘而已一讌宴賓客之細微乃亦須請命於日本統監方得施行且雖請命而仍然不准痛哉亡國之君乃至集會不得自由如此聞者傷心莫不痛惜吾則謂爲不足痛惜者豈眞絕無心肝乎而不知揆諸公理萬無可以痛惜之道也此等專制亡國之君非尸諸三韓市朝燒骨揚灰洒向南風極大時則未足清專制之流毒僅此聽令施行已屬文明國之特別優待亦思彼未亡國之前其威福自恣壓制民權無復天理韓民之被其奪盡自由者更比日人之不准其自由而倍甚耶日之特施號令不准韓皇讌宴外人用意若何雖不可知而韓皇不能自專之可憐情狀即謂所以報其昔日一味專制之深仇亦無不可也嗚呼韓皇已矣不足痛惜矣一般之韓皇鑒諸將來之皇愼諸

●美試驗無綫電信 美國太西洋無綫電信公司近在紐育港所有名哥涅島無綫電信局向英國愛蘭之無綫電信局送共計一千語其中五百七十二語皆有收電之反映確可憑徵其四百二十八語均歸漏電無反映之可徵但此電信本係試驗者而一千語中已有半數以上之收電將來自美抵英之無線信仍應無甚阻碍云大抵自育抵愛蘭洋上相距實二千二百英重而成績如此之靈捷且確功現聞該名司俟再三試之驗後即應開設一般商務之通信云

●俄簡黑海司令官 俄國政府簡派斯克理特夫充爲黑海艦隊司令長官

●美總統調停[illegible]戰 中央亞美利加洲克瓦達馬拉國與塞爾瓦特爾國現正開戰一事由美總統羅斯福君居中調停已經停戰

●俄都巡捕風潮 俄都聖彼得堡府所有巡捕一律罷業現排列成隊步行街衢以鼓動同志

啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手

遼陽州官設醫院告條

一凡請診治到院掛號須在上午自八點鐘起至十一點鐘……資例取

雜話

●支那通物語（二）

支那の言語は到る處で違て居るが支那の風俗は殆ど南北一貫して變らない、若し變るすれば其れは地方よりも寧ろ種族宗教の關係からである、旗人（純滿洲人）苗族（西藏境の人種）、道教徒、耶蘇教徒回々教徒等の如きものであるが是等は全体から見れば極少數でそして普通の支那人と婚姻も殆んどしない位で全く例外である、日本人が支那裝すれば言語は外郷人（他省人）で濟せるが風俗の方はそうは行かぬ、言語の方は支那人同士でも外郷人の旅行といへば一言半句も通ぜなく共少しも異まないが風俗の方は一寸變であれば直ぐヘテなと首を傾ける、鼻柱の若い人に言語は相當に遣てのけるが夫れが風俗はどうしても若干年數支那に居て純粹の支那風の衣食住をやつて來て又各社會に交際して來た人でないと眞似が出來ぬ　だから支那裝者の尤も注意を要するのは言語よりも寧ろ風俗である、僕等が今も同行者を擇ぶのは此點である。

經驗者の苦心と云へば是れ〳〵と個條を擧げにくい、殆ど全部苦心といへば苦心だ、丸で習熟するに從て樂になるのだが先づ一擧手一投足も刻々苦心なもので言語が出來ず服裝の揃ふたからとて一足飛に支那人に成り得るとすまし込で彼等の中に潛入ると直に失敗するはまだ好いが、役目の都合によると己れの生命にも係る樣な目に遇つたり他に迷惑を掛る事があるから公徳上からでも輕卒には行かぬ。

先づ辮髮から説くが辮髮は最初その蓄髮は初夏から始めるが宜しい、といふのは一年で辛じて辮縋即ち添髮が繋げるから暑中は恰も其初期に當て短い間に濟む、此暑中長髮なのは腦を害するのみか耳迄損じる、現に僕は其年殆ど聾となつて後から耳垢の豆程大きい血色の固形体を發見した位だ、其に此期間は普通人の目からも醜いが支那では姦夫は斷髮の上滿期出獄さすので支那人の目からは其れと知て居ても一寸心持よく見えない、假辮子即ち帽子に着けた假辮髮の經驗は僕は無かつたが此を用ゐる人は其の九も苦心の時で、兎に角絶對に脫がれぬ、のだから、幸に支那では室内でも禮拜にも脫帽しないから少しは樂だが、風呂に入れぬ、床屋にはかゝれぬ、支那人の風呂へは成丈寄付かぬ、それで風呂は我慢し床屋は仝行者あれば互に剃頭するも、然さる場合は明日其地を出發といふ日に夜晩く床屋へ行くか又は街廻りの床屋を人目に付かぬ所へ連れ行く等の方法を取る床屋　宿屋阿片屋と同じく尤も人込の所で探偵的の閑人も來て居るから油斷がならぬその日出發といふのは万一追蹤者のある時を豫防するのである、寢る時は支那の風俗上風邪とか何とかいへば脫がぬで好いが寢入た後が心配だから同室者の就眠後に寢て而して彼等よりも早く起きる晝夜被ぶり詰で腦病持は堪らぬ、人目を避けて例へば便所にても行て暫く脫帽するが、先づ其間は綳帶した心に成て居らねばならぬ、所で元々輕くて長いものが着て居て屢々物に觸れるから直に捻れて横になりたがる、初心の時はすまし込て熱閙の街上を歩いて居て豚尾が耳の上から下つて居る滑稽が屢々あるので當分は手癖樣に帽子の姿勢を直す、拇指の先て人に氣付かれぬ樣に辮子の位置を探りながら………、其れに又此新い間は辮子を疊んだ跡の折目が付いて居るし、餘り古くなると今度は帽子の方が弱つて來て豚尾の重で其後部に皺が出來る、此假辮子の失敗談は尤も豐富だが僕の實見した中に或地で某假辮子人と同行して堤防の上て或物を凝視て居る時其日本人なることが發覺した恐れがあつたのでソラといひ樣二人て飛下りた、所が運拙く某の豚尾が茨の枝に引掛つて居つたので忽ち頭髮其所を異にして人は堤下に在り帽子と辮子とは倒まに堤上の叢間にブラ下る、クリ〳〵テク〳〵の坊主頭に手をあてゝ周章たがもー追付かない、スツカリ日本人といふことがバレて仕舞つた、又或時友人某が花柳の巷で支那紳士を氣取てウンと吹て大持てゝあつたが聽て歸らうとして門を出る途端に月姐花娘が遽てゝ其辮子を捉へたらコロリ剝れた、姐娘は始めは單にアイヨと言つて呆れてゐたが忽ち東洋鬼と叫んで奥に逃げ出した、其某は今更返して呉れとも言へないので、其儘跡をも見ずして一目散に逃げ歸つた、夫と反對だが假辮子的支那通が日本へ歸てから狹斜の巷に入つて日本服て豚尾を卷上げて着帽の儘翠帳紅閨裡の人となつた、床に就いて帽子を脫がないて「今日は神樣詣りして來たので御札を帽子の裏に收めてあるのて此の床に置くのは勿体ない」といふて其場はお湯を濁しだがイザ歸らうといふと「未だ早い」といふて例の通り帽子を抵當に取た、アッこの人は憎らしいちやんころだわ、、、

營口風俗画（三）

相提携

家庭小話

蚤の退治と除蟲菊

蒸熱い氣候になつて蚤が殖えて來るには閉口します、大の男がアノ小い奴に攻擊されて夜中煩悶するかと思へば可笑しいが、子供の苦むるを見ては可笑いで放置く譯には行かず、色々の防禦策退治法を試みますが中々全滅はむづかしいのです、幸の事には除蟲菊といふものがあつて、此の花を粉にしたものは、虫除けの効があり、人体には害といふ程の害は無いのですが、近頃は此草の花ばかりてなく、幹葉根迄も粉にしたものが普通、中にはつまらぬ物を交ぜた僞造品が少くないので、こんなのは蒲團や疊の色が變る迄用ゐねば殆んど無効、從つて利く程用ふるには隨分の費用になり、用ひ切れ無い向も少くありませぬですから、此粉を買ふ時は十分品質を吟味して、少しは高くても純粹品を撰ぶ方が得用てす、蒲團の周りへこれを撒く時は枕元より少し離して廣い幅に撒き、臭氣が來ぬやうにした方か宜しい、鋭敏な子供の神經には此臭氣はよく無いのです、疊の敷合せへ殘らず撒いて置いて朝見れば、醉拂つて斃れて居るのが見當りませう、殺さずに置くと多くは生返るやうです

敷布は無論白、掛蒲團の裏や寢衣も蚤の見え易い物にし、極細いミシン縫にするが宜しい寢衣の縫目は是非改良を要すべきもので粗く縫つた其の縫端を折返して置くなぞは餘り智慧の無い話です、止むなくば藤返し表面にした方が宜しい、寢衣に筒袖は蚤の爲には不便のものです

●日本と支那と獨逸

支那人　你店這の東西多少賣か。

日本人　一ダース十五圓てす。

支那人　貴い!!!もつと便宜よろしい。負らない他舖往ます。

日本人　你待つよろしい十圓に負けます。

と出掛けんとするを慌てゝ袖引留て價段が折合つたので買つて歸る、暫時經つと先の支那人再やつて來て

支那人　先日の雜貨大變貴い、八圓に負けます、澤山買ひます。

日本人　賣買契約が出來て貨物の受授が濟んだが以前のより著るしく粗惡のて貴舖中華人瞞着あります、もー取引しません。

日本人　アヽ仕舞た、又得意を一つ失なつた。

獨逸人　日本が露拂ひをして呉れた後は皆俺達のものぢや（獨りホク〳〵喜ぶ）

新躰詩

若狹路　蘆風

うちさやぐ稻葉の末を
瑠璃鳥一羽つと辷り行く
眺むれば山並近く
雨煙る青葉のひまに
合歡の花はつかに匂ふ

空を雲亂るゝ見れば
それとなき客愁も餘る
若狹路の草分衣
たち迷ふしぶきに濡れて
菅笠のしめ緒もしとど

降りくらし日もそぼ〳〵の
寂しさに思も瘦せて
道のべの草に憩へば
浮び來るさては消え行く
雲遠き都べの人

掛茶屋の葦簾の蔭に
頻りなり馱馬の嘶き
今は早畑も盡きて
家々の燈あかき
宵の口小濱に着きぬ

祝賀狂句

輕少納言

營●口●軍●政●二●週●年

口の繁昌舟のお蔭なり
から入れて奥から下すなり
人も腕まくりするあつさ哉
の治まる今日の祭かな
年目て最早櫻の花が咲き
年の二ツ三ツ四ツ萬代も
に育つ實蒔の松の苗

祝營口二週年
祝滿洲日報一週年
遼河々岸
牛莊ホテル

祝軍政開設二週年
祝滿洲日報一週年
元神廟街
三船寫眞館

暑中御見舞

御披露
此度藝妓新顏兩三名叅り候間不相變御引立の程奉願上候也

下婢
たね　りつ　おと　きく　きみ　ちよ　はな

藝妓
新玉　福太郎　福助　福丸

營口永世街
三日月
樓主敬白

潑溂たる鮮魚は。生洲に湛へ。東京自慢の庖刀の冴へ。酒は甘釀。女は美婦。御客樓主の愛嬌と。三割引の大勉强。御客の庇陰で。繁昌致し候段。深く御禮申上候。今日此時。滿洲日報の大增刷。この機會を利用して。御客に敬意を表し。中元御禮やら。暑中見舞やら。又た貴社の擴張祝やら。一文て三つの安直的。お手輕主義は。日本館の專賣。幾久しく御贔負を希ひ奉ると。樓主に代りて賴れもせぬ太鼓を叩く者は。讀者先刻御承知の杜萬頃なり

二本町
日本館
主　三野よね
藝妓總代　きよ八
仲居總代　みやお

醇良日本酒 金盃
孔雀印平野水
サッポロビール
大販賣
和洋雜貨 洋酒化粧品 酒類 食料品
千賀洋行 奉天鐘樓南大路西
千賀洋行支店 奉天小西關大街路北

土木建築並ニ測量設計請負
營口青堆子綏定門外 志岐組

○板材木 ○蚊張
○金物類 ○金庫
○疊建具 ○花莚
○椅子テーブル ○ペンキ
○洋燈類 ○文具
○鰹節雜魚 ○紙類
○酢醬油 ○罐詰
○其他雜貨色々
新荷着大安賣
(石)
營口西北街 石光洋行
遼陽西門外 石光洋行支店

奉賀
會席御料理
營口元神廟街電話(七十九番 五十九番)
萬三樓
店主 柏谷忠兵エ
支配人 菊田鉢之助

御料理 梅ケ枝
奉天小西門より一丁西の辻北入
館主 辻井ムメ

病室增築輕便入院
是迄病室少く多數の貴需に背くを遺憾とし今回更に增築し輕便を懇切を主とし一層院務を擴張し汎く專門の功果を收とす
○全身魔醉○ ○局處魔醉○
○嶄新器械○ ○無痛手術○
○梅毒○ ○婦人科○ ○外科○ ○胃腸病○ 專門
日本醫院

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
營口綏定門街 ブッシ商會東
川喜鐵工所

資本金參拾萬圓
日清合股

營口元神廟街第貳九八號
(昌)
滿洲昌圖株式會社
營口分局
總局 盛京省昌圖府東街
既設分局 牛家屯車站、昌圖車站、四平街、通江口、大連、遼陽
本公司經官准認[可]開辦左開生理
一、東淸鐵道轉運
二、昌圖以北馬車運送
三、轉運貨物保險
四、抵貨匯兌
五、各支店所在地棧房
兼辦關內外鐵道又海外轉運(與大淸通運公司連接)東淸鐵道沿路樞要各站分局現方在設備中倘蒙遠近貨客愛顧稱新貨客親自到本棧房及各處分局面議爲荷特諱白載路途倘有水濕毀壞短少等之損傷本公司言明按卸地市價包補此

高等御旅館
奉天小西關大東路北
茂林館
(電話二十五番)

旅館料理店
奉天小西關大什字街南へ入
日章館
(電話□)

新築廣告
鐵嶺西門外停車場通り商品陳列場附近
一 西洋風日本建貸家 間口三間 奥行四間 八戸
右は鐵嶺屈指の地にして目下建築中に付本月下旬には落成致候間御希望の御方は至急御來談あれ
明治三十九年七月
營口西北街 裕和盛號
鐵嶺西門外大街 裕和盛支店
鐵嶺支店雜貨部並に鐵道遼河運輸部を今回落成仕候に付移轉の上は大改革を爲し貴需に可應候間御引立の程伏て奉願候

旅館 御料理
奉天大西關大什字街 第五分局千〇六十八号
扶桑館
館主 堀田ハル
電話 号

會席御料理
高等御旅館
奉天小西關大街北側
天神樓
溫泉付大勉强キレーデチイシヒ
(電話□)

歐米各國 最新流行形
西海洋服店
永世街一四一(森病院三軒目)
(電話二百十七號)

和洋高等 御料理
遼陽城內東街一八九號
遼東館
電話 號

◉ 煉瓦販賣
上リ竈ニテ日本人ノ製造シタル堅牢ノ煉瓦ガ御望ナレバ當洋行ニテ御需メクダサイ
二本町
高坂洋行
煉瓦製造部
(電話九十番)

白米 醬油、味噌、木炭、酢、
淺草海苔、罐詰、乾物、日用
雜貨、漬物類、淸酒澤龜特約
東京タクアン 其外和洋酒類
永世街第廿八號
大原洋行
(無比廉價販賣す)

氷
軍政署御認可濟 田庄臺大盛貯氷公司 飲料好適
發賣元 營口元神廟街成功號三階(電話一三四) 田庄臺大盛貯氷公司販賣部
特約店
大連信濃町市場前 大原商店
營口二本町 丸山氷室
營口永世街 衛生軒
營口永世街平野町角 山田氷室
營口第一市場前 松本氷室

土木建築用諸木料
板硝子類
マルソイド便利瓦
九州セメント
オールドスコッチウヰスキー
廉價販賣
營口青堆子綏定門外
志岐組 商業部

旅館料理店
奉天小西關大街南側
日清館
館主 入江熊男(電話□)

商人御定宿
奉天小西關大街北側
瑞豐館
館主 河野嘉吉(電話□)

六月
釀造元 大日本麥酒株式會社
滿洲一手販賣店
營口元神廟街 關東公司雜貨部(電話五番)
分店 奉天四平街 電話十三號 關東洋行

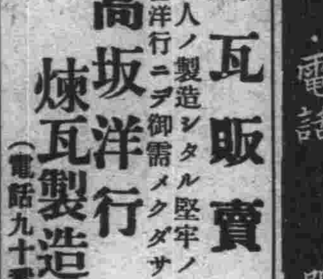
高等 麥酒スペシヤルライト
本月一日より麥酒取引は一切現金にて御願申上候

廣告
スペシヤルライトは東洋に於ける外國製麥酒を驅逐せんが爲め特に釀造せるものにして原料精撰風味高尚夏季唯一の好飮料たるは世上已に定評あり

石材大販賣
石灰
英治洋行
(營口西北街)
(電話三二)

東京守田 寶丹
本日より發賣
今般營口占領二週年祝とし特別廉價販賣仕り候間御用の方は左記の處へ御注文又は來談ありたし
營口二本町菊水料理店內
滿洲一手販賣 東洋堂
永世街 中馬藥店
仝 淺野藥店

料理店
滿月
平野町(電一六二)
滿月支店
平野町入口
店主 青木勝惠



靴製造
并に修理
右安價を以て確實迅速に調製可仕候間御注文の程奉願上候也
營口元神廟街郵便局官舍向ひ
桑田靴店

御料理旅館
三河樓支店
弊館は奉天城外十間房第一風景美なる地にありて最も納涼に適す今般業務擴張と同時に広壮なる日本家風の二階
樓主 川上總吉

御旅館
奉天小西門外大街路北
瀋陽館
屋新築し樓上等も暑に應する設備致置候間續々御光來被成下度伏して奉願上候以上

牛莊松岡病院
內科 外科 眼科婦人科診療
入院治療を諾す
殊に外科は無痛手術を施し梅毒淋疾痔疾皮膚病耳鼻咽喉諸疾は嶄新根治的療法注射療法或は血淸療法を施す
元神廟街第百三十四號
全科醫士 松岡玄雄
(電話一五一番)

御披露
小亭義者樣の御引立を蒙り日に增し繁昌に趣き候に付て今般京都より指折の藝妓一名及仲居を呼寄一層勉强仕候小亭の特色たる安價と輕便とを以て御客樣の御厚意に酬ひ度候尚夏向き丈は別に氷部を設け金時白玉何なりと御望に應じ可申候間何卒倍舊御引立の程伏て奉願上候
月 日
元神廟街 翁亭

廣告

丸三洋行分莊

不精美價值格外從廉賜顧者請光臨本行面
閱是幸
丸三洋行分莊謹啓

一若有願免藥資者須在下午到院掛號自一點鐘起至點鐘止
一特邀醫官於其家者另繳規費一元以上但在下午三點鐘以後
一欲求診斷證明諸單及處方箋另付規費
一每逢慶節及禮拜日一概休辦

上諭恭錄

五月分選單 主事禮部精膳司林棟福建甲 巡道四川永寗劉學謙直隸甲 知州貴州永寗陳慶慈湖北廩 通判廣東惠州馮敦庸湖南監安徽潁州陳啓秀山西舉浙江嘉興劉恩華安徽人 知縣廣東陸豐周秉道廣西甲江西石城陳守謙浙江增浙江長興丁惟晋山東拔江西永豐李昻四川浙江壽昌普榮廂白俱舉湖北通城胡文驪安徽監江西永新江仁徽浙江甲廣東乳源程蔭南湖北附浙江泰順程濟瀛湖北監四川黔江錢昌祚河南甲湖北來鳳鄭應墀福建附布經廣東張如棟浙江監眞州判直隸深州楊同拔昇江蘇副 縣丞江西德興齊語璿山東拔浙江金華王之臣山西附 同知司獄蘇川沙廳游榮豐四川監典史雲南富民劉秉宜直隸平鄉李懋齡俱四川監

五月分敎職選單 教授奉天錦州程芹香深州甲洮南王可培承德甲浙江衢州郛柏森杭州附雲南永北廳方濟昌雲南副 正諭直隸武邑陳鍾濬順天奉天鳳凰廳劉允恭遵化甘肅中衛顧仁泰州靈州丁耀奎西寗山西猗氏羅綺珍潞安浙江德淸姚家墉寗波俱舉縉雲程際雲杭州廣西全州張濟恩潯洲俱廩雲南石屛孫允端雲南貴州平遠劉懋森安順普安麗朱务貴陽浙江海寗王榮祖紹興俱舉直隸隆平王藎臣順天湖南衡山溫培元永州福建惠安曾其源漳州俱廩河南固始蔡常松歸德增雲南昆明吳崇烈臨安副武定武延生楚雄附四川巴州查貫月嘉定歲 訓導直隸沙河王樹銘永平河南蘭儀孟廣信河南江蘇碭山吳求貢揚州廣東永安許其琛潮州遂溪林樹墉肇慶徐聞李萃英廣州澄邁黃毓棠廣州江青田鄭炳垣杭州俱舉山西徐溝張棟大同廣西懷遠唐炳鑾桂林俱廩四川崇寗馬懋堂雷波歲雙流李嗣 惠州附大竹楊永激成都人貴州施秉程雲章黎平人直隸涿澤蘇琪增保定拔山西五台雷守 訓汾州增趙城夏寶湖太原廩山東汶上楊淑時沂州舉浙江景寗李炳焜寗波副福建光澤鄭駿福州廣東龍川何景康廣州俱舉四川南充駱騰煥資州廩復諭河南桐梓李蓉第開封甘肅靈台李守謙寗夏山西萬泉劉肇修太原四川榮經王勳重慶俱舉江西永寗甘鳳翔南昌副復訓直隸大名曹錫爵天津廩河南汝寗李澈開將歲江蘇元和陳慶輝江寗舉廣東韶州李兆蓉肇慶人浙江玉環廳蔡世鏡湖州廩江西九江雷建勳南昌人陝西漢中邢祥麟湖南常德譚壽齡長沙俱廩四川石硅廳雷春霖成都人貴州黎平彭其翼鎭遠拔江蘇阜寗石文熹揚州舉荆溪吳春棪揚州歲

論議

戶部奏駁商業模範銀行平議（續昨稿）

鍊庵來稿

雖然。吾爲此言。吾知聽吾言者。必仍有所不服。彼固曰。中國辦公。安有所謂學理。安有所謂法律。何須是曉曉。而瀏乃公事也。則請更爲質直之疑問而解決之

一商部應否有倡辦銀行之權。若據戶部一面之辭。直謂銀行乃其專責。商部无此責。此言匪特不爲公衆所承認。即政府亦未嘗承認。觀林爾嘉之承辦勸業銀行周廷弼之創設信成銀行。一經商部批准即予開辦。未嘗問之戶部也。此可爲商部得管理銀 之鐵證。且當時政府對此二事。曾無異言。是政府已認商部有此權也。戶部對此二事。亦無異言。是戶部亦早認商部有此權也。總是數端。吾得竊從諸先生大人之後。而同斷曰。商部有此倡辦銀行之權也。不謂於昔日之勸業信成銀等。則承順之。於今日之商業模範銀行。則反難之。於昔日之林爾嘉周廷弼。則承順之。於今日之王清穆熙彥。則反難之。果何說以處此。豈誤會勸業信成皆屬公立銀行。商業模範則近於國家銀行。既爲國家銀行。便易與戶部銀行相混。因慮後此競爭之將爲所紬耶若是乎則聽吾前此之解釋。其惑可袪矣

一戶部應否有統轄銀行之資。格六部本爲隋制。今戶部職司。不必攷其沿革何若。但問政府何故另設財政處。是其於財政。必無責任也明矣。戶部既無財政之責任。更安有銀行之責任。銀行者屬於經濟範圍。且不屬於財政範圍者也財政詳收支。以理財爲主義。經濟詳生產分配。以生財爲主義。二者雖有密切之關係。而界限則截然不同。今觀戶部駁議。若未知銀行爲何物。大約則以銀行混入財政。又以財政混入戶部。故於外國之財政省。通同譯作戶部。復繼之日銀行爲戶部專責。末又曰中國當整頓財政。銀行尤關要緊。其視銀行財政戶部。三者。若算學家之所謂个。化學家之所謂混合物。夫是駁議。固代表彼中人全數之言論者也。不意其於計學之理與術。味味如此。則但以戶部銀行相託且。不知何如而猶欲總攬全國銀行。皆歸其管理。即於經濟前途。絕無愛惜。求事者乃不以擿埴冥行爲苦耶。吾敢正告曰。戶部無統轄銀行之資格也。

由是觀之。戶部既無此資格。即不應阻閡商部。而侵佔其行爲。商部既有此特權。即毋須受成戶部。而甘聽其裁制。此誼甚明。即戶部亦何嘗不自知。然則奏駁之意。果何在乎。商部奏辦之始。既熟商於鐵尙書。則主駁非出自堂官可知。然觀商部原奏。言順而名正。戶部駁議。氣嗇而詞遁。自非切已之利害。則誰歟恐慌飾拒如是乎。揚子曰。大寒而求衣裳。不已晚乎。商部奏辦銀行。欲收回賫本之外溢。善乎其猶知求之也。舉國寒。貂狐不亦煥乎。奏駁之者。擁其自有之貂狐。至寒斃國者不恤。果哉。

七分俠氣三分嬌飜弄英雄掌上輕 小樹題書

中外要聞

●請將粵漢路事宜入奏 粵漢鐵路股東等此次於出洋大臣端戴兩欽使駛抵香港時會同條陳廣東鐵路公司事宜違背商法並於回京時具摺入奏

●英對鴉片問題 英植民次官查基比爾君於下議院申明抽收鴉片稅款一事是否滋弊尙未詳悉且該制度是否致有影響予未知之也又印度大臣麻禮君對於議員質疑關於印度與中國鴉片商務事宜英政府是否誘導中國改善申明英府擬先須察知中國政府之意向所存再籌法也

●英國教育案之決議 英國下議院討議教育法案第三十七節於威爾斯設教務部一事頗形激論商務院長惹西君對於聯合党駁申明云政府擬簡派大員充爲威爾斯教務部長已經預備一切前首相巴爾福君聲稱想此事於憲法上頗爲重大事項然現政府對於此事不假時日直欲行議定是排人於陷穽也亦實侮辱下議院也然對於該提議案贊成者二百七十九人反對者五十人又對於教育法案三十七節贊成者二百九十五人反對者百零七人已經議定矣

●德使抱恙赴美 德國駐美全權大使斯鐵倫堡於勃斯登車站猝抱恙現已向紐育啓行

●德默使謁俾羅公 德國駐日欽使穆默男爵現於納爾鐵爾尼謁見俾羅公爵

●教皇演說訓戒 羅馬教皇於大教演說對於法國教士反抗法國法令深誌訓戒

●派比君爲十師團長 法政府派前將士比克瓦杜君充爲十師團長駐衛巴黎

●俄巡捕罷業 俄都彼得堡巡捕一律罷業

雜報

●恃强忘義 關帝廟東有鮑姓烟館與一李姓合同生意兼宿行旅於前四月間有一山左流民某甲身軀偉岸望門投趾奈兩肩一喙除蔽身衣外幾無長物鮑察其身材相貌不類長貧賤者遂止令久居甲每作苦自給乃同鮑等共食暑兩月餘統欠店飯等費參元五角有奇詎於旬前而甲一去不返鮑屢次求人尋訪不知踪迹昨日午後鮑之夥李姓於揚武門西北與甲遇諸途乃責甲負債竊出不歸遂力向討償詎甲橫不論理李執同見鮑而甲決不往且覰乍單弱尙要用武以致喧嘩引人蟻集李雖不敢向毆而扭甲決不釋手觀者覩甲兇狀咸憤不平然絕無好事之人出作魯仲連者正當二人扭結不捨之際忽由東巷來一查街巡捕詳向盤詰衆等代訴原委巡捕聞知初猶爲之排解而甲儼若有恃無恐仍出狂言巡捕勃憤批其頰甲始速聲遜謝認罪服輸如數償錢云云於是衆憤偕洩反爲一哂或曰如某甲者殆如黔驢之技止此咆哮雖龐然大物或亦牽之不走撻之倒退之類云

詞林

滿洲日報週年紀念之期。敬成三律以供大雅一粲。 漢文紀者 臨溟釣叟

滿眼文明現象垂。洲分歐美共探驪。日新月異爭優勝。報李投挑演恠奇。週甲留光成往迹。年華迅速反今時。紀綱振起乘新運。念我神明繫遠思。

域外澄霞建赤標。五州萬國劇風潮。文明進化超來古。政法維新緒甚淆。愧我濫竽難鳳造。憑誰握槧雪蟲雕。居然大職稱無愧。一例聲名報界遙。

鴻篇鉅製屬通儒。德召芳鄰始不孤。昔日草萊惟我闢。今時旂鼓讓君殊。貧糧智粽千夫。大輅南金萬國圖。黼黻皇猷賴文事。和聲鳴盛效嵩呼。

評曰三首思想沉溟辭句婉曲。學劍南已入堂者乎。 小樹逸史拜批

祝營口占領第二次紀念會

清國營口(牛莊)西北街第二百三十號(電話二百十號)

正隆銀行

資本金十六萬圓

七月二日開業

各位益々御清福奉欣賀候陳者本行儀開業後日尚ほ淺きに不拘大方諸彥の御眷顧を蒙り業務日に増し繁榮に赴き候段難有御禮申上候就ては此際行員一層精勵努力し誓つて各位の御便益可相圖覺悟に御座候へ共何分開業匆々萬事不行屆の爲め或は各位の御希望に適ひ兼ね候點も可有之候間營業上に付御疑念の處は無御遠慮御垂教被下度て微々たる本行をして幾分か滿洲貿易の發達に資せしめられ事希望に不堪候左に營業項目及利息割合記載致候間御一覽の上陸續御用命被仰付度偏に奉冀上候

支配人 深水十八

營業項目

(注意)

●本行受入の貨幣は軍票及正金一覽拂手形は勿論墨銀小銀貨に至るまで精々御都合宜敷樣御取扱可致而して右貨幣相場は日々變動致居候に付御用の節は其都度電話又は御來行の上御尋ね被下度候

●營業時間は毎日早朝より夜分迄とし日曜等一切休業不仕候間何時御來行被下候ても差支無之候

一、定期預金(長期存欵)

●預金額 一口 銀三十圓以上

●利率 三個月 按年五分 / 六個月 仝 五分五厘 / 一個年 仝 六分

一、當座預金(暫存欵)

●預金額 一口 銀二十圓以上

●利率 按年四分五厘 / 百圓に付日步一錢二厘三毛

●小切手は日本文支那文及英文の三種備付置候間御好に隨ひ何れにても御渡し可申候

一、小口當座預金(零碎暫存欵)

●預金額 一口 銀一圓以上

●利率 按年五分一厘一毛 / 百圓に付日步一錢四厘

當預金は勤儉の美風を養成し貯蓄を奬勵するため殊更に設けたるものに有之候故最も簡易懇切に取扱ひ始めて御預入の節は金員に御印章を添へ御持參被下候はゝ手續は一切本行にて可致候金額は一口銀一圓以上なれは如何程にても御預り可致又御引出は何時にても差支無之候殊に利子の割合は右の主意により出來得べき丈け高利を附し其計算は御預入の即日より御引出の前日までの割合にて一年に兩度(六月、十二月)支拂ひ申候間非常の御利益に御座候

一、貸附金(放利)

本行は資本に裕ならさる有爲の士をして滿洲に於て充分驥足を展はさしむる爲め能ふ限り簡易なる方法を以て御依賴に應すへく擔保貸信用貸とも精々低利に取扱候は勿論可成當地固有の風習を斟酌して各位の御便宜可相圖候

一、送金爲替(滙兌)

取組高は一口銀十圓以上とし可成迅速に可成御便利に取扱ひ申候目下の爲替取組先は東京、橫濱、大阪、神戶、長崎、上海、天津の七個所にして何れも橫濱正金銀行本支店に御座候尙近々日本各地及朝鮮地方にも取引開始可致候

一、過爐銀

金融市場の動靜を精察し過爐銀の取引をも開始し大方の御便宜相計る積に御座候

右の外當地の狀態は近時漸く勃興し來れる信託事業の必要を感ずること最も大なりと認め候に付本行は左の二項目を附帶の業務とし少額の手數料を以て誠實に取扱申候

一、一般財產並に土地建物の管理を引受くること

一身上の都合により自已財產の管理をなす能はさるもの又遺族扶助料恩給金資產家の財產等の管理を本行は代辦し忠實に委託者の利益を計るの外土地建物の地代家賃を取集め其他之れに關する一切の事務を取扱ふものに御座候

一、不動產抵當貸附金の委託を引受くること

銀行定期預金の利率に甘せす多少の貨殖を望まるゝ資本主の代理人として本行は確實なる需要者に不動產を擔保として金員を貸附け之れに關する手續を代辦するの外爾後此債劵を管理して利息及元本の取立を取扱ふものに候

(以上は營業項目の大体に不過候が詳細の事は御來行の上直接支配人に御問合被下度候)

祝滿洲日報創刊一週年

茲啓者本銀行稟承監督衙門照准始行開設本行原與舊式銀爐無異而加以東洋之新法中外合一同感相和不分畛畛因推深水十八君爲總經理人君曾在正金銀行執事多年不惟風情無不熟悉且稱資深望重於理財一道尤其所長且行內上下一心以重德尙義爲宗旨所有辦法殆無中外之別存欵借貸欵匯兌等凡銀行銀爐事務一概辦理格外克已以副雅望如蒙士官紳商賜顧請駕惠臨面議是荷

辦事規條開後

一、本行不論國票鈔票軍票所有各樣銀錠大小洋錢皆可通融辦理但是每天各樣行市長落不一有銀錢緊急通融等事可用得律風打聽行市或至本行面議一切均可

一、本行辦事每天早起至晚亦無息止每逢禮拜日期照常辦事隨時蒙顧隨時辦理

一、長年存欵

三十元以上

利息 存三個月者每百兩按年五兩利息 / 存六個月者每百兩按年五兩五利息 / 存一年者每百兩按年六兩利息

一、暫存欵(不拘多寡隨便存支)

利息 每百兩按年四兩五分利息 / 每百兩按日壹仙二、三利息

此欵有支票(華文日文英文)隨貴客之便使用多少開出支票戳記花押隨便使用

一、零碎暫存欵

壹元以上

利息 每一百兩按日一仙五厘利息 / 每一百兩按年五兩一錢一利息

此欵原爲養財之本積少成多本行故立輕便之法以爲士商及時之便無論多寡存用聽便應得利息毫無損傷算法亦爲周到自存欵之日起算至取回之日止一年兩回算利合原本所以格外得益賜顧人士將銀與圖書帶至本行可也

一、借欵

如欲使用本行銀洋之紳商諸人請至本行面議可也本行放欵至極公道

一、滙兌

大阪、橫濱、上海、天津、神戶、長崎以上七處十元以上隨時可以匯兌毫無差錯匯到之時都在各處正金銀行本支店代爲辦理

一、過爐銀

精察市面之情況而後可以通融過爐俾期大家方便

一、受託管理土地房屋及一般財物

本行因有所感時下所興之信託事業最爲緊要故此兼辦左開之事

爲自身不能照料自已財產房屋本行可以代管署辦除講求進益之外可聚集租房錢等事

一、代辦作押地土房屋放利等事

爲不愿本行存欵規利思求格外利息之人士本行代辦可以放利以確實房屋地土作押求格外出息之外以後代辦湊集原本等事

隆記洋行

本行係正隆銀行總理人深水十八創立開設在東營口西北街第二三〇號代客專辦出口餅油豆等所有土貨進口新樣機器東洋大宗各色貨物誠實無欺其費格外從廉士商賜顧者請到本帳房面議可也 本行主人敬白

小生儀今般上記名を以て豆豆粕豆油其他の輸出品及び各機械並日本品各種委托賣買業を開始候に付きては多少に係らず續々御注文被下度尤も手數料の如きは可成低廉に專ら誠實を以て旨とし永遠に取引相願度候

支配人 深水十八

●過去二年間の營口貿易

過去二年軍政中に於ける營口の貿易は決して複雜ならざりし、複雜ならざりしだけに光輝ある頁を飾る能はず、是れ吾人が今此の項を草するに方りて私かに遺憾とする所なり、

回想すれば二年前の今月今日は我が軍營口の地を占領したる翌々日にして、人事萬般最も混雜を極め高山少佐の軍政施行を告示するに迨んで始めて人心歸向定まりたるに過ぎず、其金融其經濟もとより紊亂を極めたるに偶ゝ以て營口の經濟界に一紀元を劃したるに似たり、夫れよりして後ち營口の港灣は軍需品輸送の船舶を以て掩はれ、大小ジャンク亦多く徵發されて軍需品の輸送に充用されたり、假し此等無數のジャンクは徵發を免かれたりとするも內地戰亂の時に方りて爭てか貿易の事に從ひ得べき、もし是れありとすれば之は小數日用の食料品と雜貨となるべし而もその食料品が營口を經由して輸入さるゝは平時と雖も極小なるにあらずや、況んや雜貨の如き如何にしても到底平時の輸入高を以て割り出し得べきにあらざるに於ておや、唯だ我が軍の前進すると共に戰況の愈々佳境に入るに從つて戰斗各員の要求する雜貨が酒保商人の手により輸入さるゝありしのみ、營口の商業は暫らく此等雜貨の零れを運轉するに過ぎざりし、苟も貿易と稱ふるもの全く杜絕されたるは是れ此の時の狀勢が然らしめしなり、然れとも日本軍の前面には露人あり中立地帶に於ける商業は何等の阻障を受くることなし、南方上海乃至芝罘、天津附近の淸人及び他の外國人等は關外鐵道を利用し露軍に向つて盛んに軍需品の輸入を試みたり、此等の企圖は最初に於て成功せるものゝ如くなりしも南方商人等の見込は餘りに樂觀に過ぎたり、此の故に諸雜貨乃至棉布、綿絲、砂糖、麥粉の類を搭載せる多數の船舶は秦皇島附近に輻輳せしも、軍隊の需要自から限度あり且つ輸送の途亦た自から無限なる能はす、無慘にも此等貨物は到着其儘の姿勢に在りて越年せざるべからざるに至れり、三十七年末より三十八年の初に亙る冬季間馬車に依る陸上貿易行はれたるは是れありしも到底大貨物を捌き切るに至らずして商況は依然不動の狀況に在り、此間營口を經由して內地に向ふもの亦た多少の車輛によりて搬運されたりと雖も未だ內地土人に給養するに足らす、即はち三十八年の初期に至るまでの貿易は殆んと擧げて云ふに足るものなかりしなり、

三十八年二月末より開始されし奉天會戰前に當りてミシチヨエンコの營口襲擊あり黑溝臺の會戰あり戰況常に我れに利ありしが爲めに沙河の線以南に於て從軍隊に追躡して馬車輸送に從事し或は軍糧の供給に從事したる內地淸人が、其正月を賑はさんが爲めに附近の都會に向つて少からさる金を拂ひたりしと、續いて戰はれたる奉天會戰が我が勝利に歸したるとの爲めに浮薄なる土人が無意味に擲ちたる金額の尠からさりしかは、營口の地自から潤ほひ市中の景氣は稍々振ふに至りしが此の時は恰も、世界の耳目一つに日本陸軍の赫々しき勝利に集まり居たる際とて人氣は自然に動き商界亦活氣を帶び、南滿の咽喉たる營口は一と方ならす景氣付くに至りたり、然るに此の好景氣は商界の有藏無藏を驅つて全く營口に集まらしめぬ、而も上海方面よりせし夥多の貨物は尙は全く流動するに至らずして狀景依然たりし、蓋し營口が一時好景氣を呈せしは主として戰地に於ける日本雜貨の影響を受けたるものにして末だ以て營口の商業が振ひたりと云ふを得ず、五月末日本海海戰後に至りて平和克復の豫想世界に遍く行き渡りたるとき南方よりせし貨物は流動し始めたりそれよりして後ち徐々に商況回復の徵あり、引き續いて平和の克復となり滿洲內地の需要は一應の供給を受けさるべからざるに至りて、三十八年末より三十九年の初に亙り主として關外鐵道により上海貨物の流入するあり、內地の需要は一應の供給を受けたり

然るに不幸なる商人等は全然滿洲內地の購買力を誤認し居たり、戰役中露軍と日本軍とによりて多少の金を儲け得たるものは滿洲內地人に非らすして實に山東苦力なりしなり、此の故に犇めき立て、營口に集まりし商人と其の貨物とは更らに移動する能はさる窮境に陷れり、營口全市に此時正に歎嗟の聲を以て充されたり、斯かる裡に遼河は解氷せり而も蹂躙されたる土地より收穫する能はす輸出貨物は營口に於いて到底拾収すべき樣もなし、僅かに新民屯より關外鐵道によつて少量の大豆類を輸出せるありしのみ、輸入は已に超過せり市場の金融は逼迫せり如何にして不景氣は容易に挽回さるべきか、唯だ日月の經過に待たさるべからさるなり、

已にして不景氣の裡にも日は暮れて營口の經濟事情に漸く回復の期に到達せり、頃日遼河を遡航する船舶は平均約百隻內外にして空船は常に七十隻を上下し、鐵道貿易は輸出に於て常に貨切り貨車二十車內外輸入に於て十車內外を平均とす、而して是れ多くは雜貨の貿易なり、河流に沿ふジャンクの輸出量は每船約七十擔積平均四十隻にして是れぞ營口本來の貿易品なるが近來に至りて其隻數五十隻より百隻の間を往來するに至れり、此の現象は即はち營口の貿易が順境に復しつゝあるを實證するものにして且つ本年の滿洲內地の作柄は甚だ豐穰なりと云へば來るべき冬季の貿易は誠に活目して見るべきものあらんか。

營口風俗畫（四）
御大將の出馬

日報俳壇

杜鵑　二十句

郭公三聲は遠くなりに鳧　宇骨
世を憂しと知りたる夜半や鵑　同
待まけた人はいなせて杜宇　甫人
幌馬車の門にとまる夜不如歸　老兵
躓きて提燈消しぬほとゝぎす　稻波
厠に待す森蘭丸やほとゝぎす　同
郭公去年この頃われ病みぬ　旅鳥
郭公文士の庵いさ訪はん　鯉峰
ほとゝぎす城の櫓に缺た月　仙橋
眼ふさいて藥のむ時郭公　默堂
獨木橋越えんとすれは不如歸　火東
杜宇木草も眠る眞夜中に　千曲
山芋の鰻に化す夜ほとゝぎす　禾乃
さまよゐる今はの文や蜀魂　山水城
郭公耳をそらせて居る時に　茶亭
執着の人は知らじな不如歸　月浪子
地震のあと風にもならで杜宇　水哉
故郷のゆめはさめたり不如歸　松雄
ほとゝぎす燈に刀をかざす時　野梅
杜鵑まぎれぬ夜半を名乘けり　同

旅館 第一樓　營口ホテル　料理 第一樓

料理 一力　營口永世街　店主 堀万助

料理 東京館　永世街八十六號　店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館　西北街百七十三號正金銀行西三丁程

料理 沖の嶋　永世街百六十四號　店主 中川彌三郎

旅館 高砂ホテル　西北街（電話一四五番）　店主 廾山小みつ

旅館 大和館　永世街三十四號（電話十一番）　店主 前田九一郎

松 茂 洋 行

本行日本大連營口間
定期滊船
摩耶山丸　賴朝丸
中國丸　第二攝海丸

船舶部　本年弊行取扱滊船は既に一百二十艘に上り內外船舶代理店中の第一位を占め居り候今後一層御便宜相計り可申候

運送部　南滿洲鐵道貨物運送は責任を重んじ懇切を旨とし取扱上遺憾なきを期し居り候

貿易部　今回更らに之を擴張し日本內地の各種商品製造元と特約を結び又滿洲內地には有力なる淸商と連絡を通じ日支貿易の振作を計り委託販賣を極めて低廉なる手數料を以て懇切に取り扱ひ可申候

倉庫部　今回軍政署より綏定門外第一碼頭及倉庫の使用保管方を命ぜられ候に付大に船舶貨物の便利を相計り可申候保管貨物に對し當行は保管證券を發行するを以て金融の便に供するを可得候

本店 日本大阪 河邊九良三郎商店
本行出張所
大連監部通二丁目 松茂洋行出張所
奉天小西門外 松茂洋行出張所
鐵嶺西門外 松茂洋行出張所

大阪朝日麥酒滿洲一手販賣
大里製糖會社特約店

水陸運送業
煉瓦製造業
營口永世街
高坂洋行
（電話九十番）

加藤洋行
東海關後街
東洋雜貨
貨眞價實
本行 天津
分行 營口 北京 大阪

淡谷木局
本號開設營口東靑堆子發賣栢木方料栢木元料紅松料木油松方料元木大小標子廿四尺栢木大杆木板此木材出售價廉採買客人不知諱此廣告
東靑堆子橋南
淡谷木廠

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千壹百五拾萬圓

横濱正金銀行牛莊支店

本支店出張所
横濱、神戸、東京、長崎、大阪、倫敦、里昂、紐育、桑港、布哇、孟買、香港、上海、漢口、天津、北京、大連、旅順、奉天、遼陽、芝罘、鐵嶺、安東縣

（電話十番支配人室（二）百八番事務室）

營業項目
一定期預金（長期存欵）　三ケ月　五分　六ケ月　年五分五厘　一ケ年　六分
一當座預金（暫存欵）　年　四分五厘　日步　一錢二厘三毛
一小口當座預金（零碎暫存欵）　年五分一厘　日步一錢四厘一毛
一送金爲換取組先（滙兌）　東京、横濱、大阪、神戸、長崎、上海、天津の横濱正金銀行本支店
一貸附金（放利）　一般財產並に土地建物の管理を引受くること不動產抵當貸附金の委託を引受くること
一附帶ノ業務

正隆銀行

本行受入の貨幣は軍票及正金一覽拂手形は勿論墨銀小銀貨に至る迄精々御都合宜敷樣可相働候尙近々の內過爐銀の取引をも開始可致候

軍政署認可

●ぬ號勸業貯蓄債券（五圓券）發賣

營口西北街第二百三十號（日本人會西隣）　支配人　深水十八（電話二百十番）

ஃ宅洋行

啓者敝行專賣綿紗粗布綿絲布荷花標布東洋緞子紋緞子絨布手巾花巾洋胰火柴鐘表等類價値格外克己並且貨眞價實以致敝行名譽日增新蒙官許在牛家屯設立鐵道運輸營業以便客商就近辦理各項事宜於敝行推廣招徠之意愈覺著明所有華商賜顧本行專聘熟悉商情之華人宋厚田氏細心接洽欵待周群俾可面商一切事宜幸中外士商鑒其誠實無欺惠臨賜顧局勝榮幸之至　總司理人　田中賴之助謹白

開設老爺閣街同盛德院內　電話（店一八三番　住所五五番）

ஃ東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉絲布疋火柴洋麵糖煤紙貨發行並匯兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉貴客賜顧請到小號面議是有　總司理人　葉亮卿謹白

ஃ東永茂

機器油房在營口創辦油榨生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運瀼船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之　正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

ஃ西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外　士商賜顧者請認明招牌決不致悞　本主人敬啓

ஃ仁裕號

係裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此僅

營口西大廟街路北警乙第十三號

ஃ志岐組

本組開設營口綏定門外專辦架造房屋及做工之事自今發售各種日本木料洋灰玻璃洋酒麥酒便利瓦等類價値格外從廉品質精良並且貨眞價實以致本組格外名譽其誠實無欺惠臨中外士商賜顧請到本組面議是幸　本主人謹白

ஃ永順洋行

本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議

西北街東櫃（電話九十五番）
西義順棧內西櫃（電話九十八番）

SP　糸平公司

本舖在大阪開業以來一百餘年今特於本埠開設支店所有發賣物品貨美價廉如蒙中外士商賜顧請至本行購買可也今將自製布類列下東洋各色絨布毯子各式被面各色布疋各種綢布其他一切織物概行發賣並特約販賣（正日光）皮酒價及各樣雜貨尤廉減特此廣告　營口元神廟街元神廟南邊路西
朝日ビール特約大販賣（電話一百九十二號）

三井

電話　第六十六号　第九十一号

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷

○發售新到洋白糖

倉庫部

今回倉庫所在地（靑堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候（電話百二十八号）

經理

○明治火險公司

本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議

○發售日本白米

○東京水險公司

啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元　分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議

三井洋行啓

啓者火災之害影響於商界者最鉅營口爲通商大埠百貨屯集資本浩繁有保險以維持之可以有恃無恐法至良意至美也小行經理日本明治火險公司已歷多年幸蒙中外所信用前有郭漁笙王鹿芹朱斐章先生久在營口信義素著且於保險章程最能熟悉小行特請爲代理人以廣招徠使保險者便於接洽聲應氣求較之直接尤爲穩妥諒亦鑒貴商所樂聞乎如蒙賜顧請逕至大德亨內面議可也

營地商務之盛大異昔年惟於火險一道以謂關於天數吝惜保費孰知一家東本數萬金常存數十萬金之貨一遇不測非但數十年老業難繼即殷實東家亦覺受累無窮可見保險之有益豈淺鮮哉僕等承三井洋行謬愛囑爲代理日本明治火險公司保險各事僕等素知該公司及該洋行信義久著故敢代爲介紹且保費亦較他公司克已請公賜顧請駕臨大德亨內面議不誤

洋行

電話　第六十六号　第九十一号

王鹿芹　朱斐章　郭漁笙　仝啓

日本官造紙煙專售告白

本號現開設在大連、安東縣、營口、遼陽、奉天、鐵嶺、等處專售日本官造紙煙牌朝日（紅旭牌）大和（雲花牌）敷島（蓬島牌）嫣媽唎（軍旗牌）隆佑來福（雙仙鶴牌）利口（百合花牌）撻利（櫻花牌）斯達（星象牌）哥耳天巴德（蝙蝠牌）等九種及煙絲各樣

東營口西北街（舊代々木公司）　日本官煙營口專賣處

上海　中井洋行

專運日本各式紙料

本行開設已歷多年曾與日本製造名廠訂有專約凡新聞紙料印書籍各式紙料鈔票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售　貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也　中井洋行

牙大夫學士兒島醫院

DENTIST. Dr. KOJIMA.

●語日齒全壽長●營口元神廟街

告白

啓者本院主從來於森醫院齒牙治療從事則近時稍感狹隘因今別卜居開院新式諸器械完備無遺憾專足於救治牙疼施術齲窩金銀充塡落齒補足妙技矣有齒牙疾患者希咀嚼快者欲皓齒金光燦爛美者速來知神祕妙執事

㊞鐵道遼河裕和盛運輸局

（電話八十一號）

在東營口西北街旗昌洋行對門

啓者本號向在日本長崎開設數十年并店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧

總司理主人　周鶴雲　運輸部主任　高濱麟太郎　謹啓

志岐組木料棧　材料出售

啓者本棧開設鎭口永安街專售鴨渾兩江之各種木料品質精良價値格外從廉克已凡中外士商光面議顧請到本棧

丸重轉運行

啓者　本行前經關東總督之特准開辦東清鐵道轉運行專代客裝運貨物安全速達價亦格外公道以致名聲日增今又各車站設立分莊運輸決無誤如蒙貴商光顧請面是議荷

營口西北街（電話十八號）　既設分局　牛家屯車站（電話四十六號）　遼陽、奉天、昌圖各車站

營口　承文信記書坊

現廣西大街粵東會館前阜豐棧內專售古今書籍及石印教科新書石板石粉筆等一概俱全如蒙士商賜顧者價照批發格外克已不悞　本號主人謹白

關東玻璃公司

本公司自造各項玻璃器物貨色精工市價從廉光顧者請至　營口永世街

第五號門牌便是

靑堆子　菅野玻璃廠

玻璃器什遠運必有破壞從價不廉玆本主人開辦玻璃廠聘請多好手藝之人自造各樣洋燈罩子瓶碟等凡所有玻璃器什類一概發賣價値公道主顧不誤官商幸給顧光特告白

本主人謹白

飯塚工程局材料部

營口元神廟前（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を詰び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候

一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

喜久洋行

啓者本行專售東洋各種木料板片及亞鉛洋鐵瓦東洋大塊炸子消毒生石灰洋釘木炭等物敝行在靑堆子自置棧房堆積貨物裝船裝車一概方便物美價廉格外公道倘蒙　中外紳商賜顧者請到本行面議是荷

開設永世街第二小鐵道市場路東

本行主人謹白（電話一五二）

りん病せうかち　ボーコーカタル　即ち花柳病の特効新藥

（醫藥學細菌學應用萬國陸海軍局方參照）

御典藥　複方　麻病丸

藥價　三日分　三十戔　七日分　五十戔　十七日分　壹円　小包料十戔

韓各有名藥店取次全國各地及淸

大阪江戸堀下通三丁目　本家　（電話西千五十九番）

〔安々堂藥局〕

複方　麻病丸（白濁藥）　批發所

此藥崇治白濁五淋赤白帶下及痲病初起之腰痛發熱痙攣疼痛男子生殖器病女子子宮病服之應手奏効不可疑聖藥也宜用嘎洛不洛散洗淨患處則奏愈速

營口永世街警務課東隣

回天堂大藥房　電話百九十號

洋鋼鐵

麥粉、白糖、白米、玻璃板、亞鉛板、鐵線、洋釘類、建築上工用具及船具類其他諸機械ノ製作修繕

安東縣市場通七丁目　合資會社　秋田商會支店

●印刷彫刻　●ゴム印
●活版名刺　附屬品一式
●各色印肉インキ

各位の御引立に依り日に月に隆盛に趣き候段奉謝候今回技術精巧なる職工數名到着候に付分店設立と同時に一層勸勉を以て期日正確價格低廉貴需に應ず可く候間多少に不拘御下命被下度候御報知次第店員叅上仕候

刻字舖

營口永世街三十七號　尾崎洋行
奉天小西關大街二七八號南側　尾崎洋行分店

安東縣東大街　合資會社　秋田商會支店

滿韓境上唯一樂園　五龍背温泉

安奉鐵道安東縣驛ヨリ五龍背驛迄一時間半溫泉場ハ五龍背驛ヨリ僅カ一丁眺望絶佳今ヤ新綠滴タルノ下淸流掬スベキノ仙境タリ

當溫泉ハ元陸軍療養所ニシテ今回公衆ノタメニ開放セラレシモノナリ効能ハ脚氣、痔疾、刀瘡、神經病、胃病、子宮病、僂麻質斯、黴毒、痳病等ニ特効アリ

登錄商標　㋖

永世街

美術珍柄種々　新荷着仕候間御來觀之程奉願候

木村呉服店

電話八十八番

料理 まんなをし 永世街字二本町 店主 和田常松

料理 喜樂亭旅館 營口平野町

東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

和洋料理 松月亭 營口元神廟街一一三四 店主 末松信太郎

さるそば 第一更科 第二更科 營口元神廟街 永世街 鶴の湯角

雜報

今潯陽（全盛妓の末路）

祇園精舍の鐘の聲諸行無常の響あり娑羅雙樹の花の色盛者必衰の理をあらはす實にや驕れる者の久しからず貴き者も遂に亡ぶる習ある世の中に況して浮沈常無き憂き川竹に身を沈め全盛藝妓と謠はれてたとへ一時の嬌名を博せりとて榮枯一たび地を易へは奈落の底に墜落して悲嘆の淵に暮るゝぞ是非も無き次第にてそ

爰に營口第三樓の歌女に三平といへるは器量容貌の人に優くれしとにはあらねど天の成せる美聲は自ら律呂にも稱ひて音樂の神の化身かとも疑はれ殊に新內の一曲其最も得意とする所にて瑯々たる聲調一たび喉を破つて出づるや其流麗なるは恰も玻璃盤上に玉を轉ずるか如く其幽婉なるは宛から黄鳥の深谷に綿蠻たるにも似て一急一緩一高一低韻嫋々として聽く者皆其巧妙を稱へざる莫し初め京城に在る時新內藝妓の名滿都に籍甚し凡そ邦民大小宴席必ず三平を聘して興を助けざる無く韓京交際場裡の花役として三平獨り其名を擅まゝにせるが當時在韓官商の俠名を誇る者一たび其一顧虧ぐんぞして遠近先を爭ひ轡を駢べて押を買ひ寄せけるか[illegible]今の外務省に濱人ありと聞えたる山座圓次郎氏は當時公使館書記官として韓京に在り一たび三平の技を見るや忽ち心意恍惚として夢寐忘るゝことを得ず白馬金鞍屢ゝ三平か館に參せられしも生憎柳に風と受流して靡く風情も無かりしぞ男一代の鼻折れなりける

去る程に三平其後暫しは京城に留まりて藝園の全盛を一身に集めて擒縱活殺の秘法を双手に掌握し幾多有髯の兒をして轉た懊惱に堪へざらしめしが無情の風の何時は吹ざらはこそ一時飛ぶ鳥を落さん許りの流行妓も或些かの事より身を持崩しては暮山復た落暉を留めず三平の名殆と京城に忘れられて流離落魄杳として久しく其消息を絶ちたりしが當時少壯外交官たりし山座氏は轉じて本省に入り已にして擢んでられて政務局長と爲り恰も三十年來萎靡振はざりける我外交發展の好機運に際會し日英の同盟日露の折衝日清の交渉等參畫與りて最も力多く今や我外務の大立物として吏人の光榮と羨望とを雙肩に荷ひつゝ遷つる五月の末つ方首相西園寺侯に扈して滿洲に來り途大連を過ぐるや一夕某旗亭の讌席上ゆくりなく邂逅せるは正しく當年美聲を以て幾多青衿を惱殺せる韓京の藝妓三平なりけり彼れ今は流離顚沛して褸れに褸れたれども贔負目に透かせは何となう昔の俤をとゞめて床しき點の無きにしもあらず局長の君ツレと近く眼配せしつゝ膝元近く靡けば滿面さつと紅を潮して其前に打伏したる儘顏も得仰向け得ず往時を追懷し坐ろ萬感胸に逼りてにや只た面目無しと泣き咽ぶ座客興醒め一時は水を打ちたらんが如くなりしが斯くてあらねば種々に撫て慰かして強ゐて撥取り且つ彈じ且つ歌はしむ天成の美聲に加ふるに境遇の悲慘を以てす一聲高く張り揚げて唄ひ出づる新內の一曲音聲朗々として一張一緊沈痛限り無し一座皆與に入りて漏の移るを知らず數々の引出物などありて不時の面目を施し罷り下かりしぞ目出たし

已にして首相局長の一行は瀋陽城に抵り趙將軍と樽俎の間に折衝し歸朝するや山座氏は更に福島將軍と滿洲事宜を解決すべく營口に越されけるに三平亦流れ流れて此地に來り第三樓に寄りて得意の藝を賣り僅に衣食の料と爲しけるが半ば世を忍びての身とて知る人とても未だ多からざりしに會々當市街春帆樓（朝日館）に日本人會の主催にて將軍及び局長の一行を[illegible]して歡迎の宴を開ける當夜歷々の面々相率ゐて第二次會をば第三樓に開かせ給ふや又もや三平の同樓に在ると聞き召出して坐興を助けしめんとす三平時に孕みて已に六閱月夏衣の薄袖蔽はんと欲して蔽ふを得ず且つ大連の不面目之を再びするに忍びずとて固辭して出てざりしも再三再四の思召なれは後の程も恐ろしとて強ゐて御意承はりて罷出唄ひ出でたるは得意の新內稻川千兩幟の一段なり悲痛淋漓意盡し情逼り聽く者皆泣かざる無く赳々たる武人亦鎧袖の濡ふを覺ひざりしが就中一行中の新進外交官たる一風流秀才傾聽最も感激に堪へず三平亦一たび相見て相思の情轉た切なるもの、如く遂に一隅に唧據して淺酌低唱且つ彈じ且つ歌ふ絃聲已に杷えて私語喃々話頭は更に移りて十年流落の歷史に遡り頻りに身の不遇を嘆つに似たり風流秀才具さに聽て語々心に肯づくもの、如く遂ふ手を執つて相爲めに泣く少時ありて漸く巳に反り偶然眼を擧ぐれば座客皆散じて唯だ燈下雙影の壽上に印するを見るのみ

三平其翌日よりして時昔の夜を憶ふて思慕轉輾寤寐忘るゝことを得ず更闌け人靜まりて密に布袋大の腹を撫しつゝ東の空を眺めて涙に掻き暮るゝこととかや實に水性女の成果程世に淺間敷ものはあらじ

營口風俗畫（五）

一獲千金

●營口軍政開始二週年祝賀

▲在留六千の同胞が異口同音に待ちに待ちたる營口軍政開始二週年紀念祝賀會は既報の如く愈々本日を以て開催せられる事となれり、回顧すれば本月初旬始めて紀念祝賀會開催の議の一般に傳はるや在留邦人は老幼男女を問はず此の光輝ある紀念日を大に祝さんとて殆と狂人の如く東奔西走業を擲ちて祝賀準備に忙殺せられしが就中當旅館料理店組合の如きは數百の婦女子を集め用意をさく〳〵怠りなき熱心は屢々本紙の記載せし所なりと今ま日催すべき軍政署側及び一般邦人の催しを左に項を別ち記載する事とせん

▲軍政署側 軍政官々舍に於ては午後六時より日清兩國の紳士紳商及同署諸雇員以上の祝宴を催し尚翌廿七日午後十時半より歐米人及び在留邦人の主なる人人を招待して一大夜會を開催す

▲餘興と準備 軍政官々舍內に於ける餘興其他設備左の如し

一、餘興
海軍通樂隊、煙火、婦人手取

二、警戒係
細井特務曹長、憲兵、巡捕若干

三、煙火係
內和田雇員、安藤囑托

四、軍樂隊係
石川通譯、新庄雇員、原計手

五、餘興手踊係
宮部、內和田雇員

六、場所設備
增田技士、內和田、永田雇員、三宅囑托、安藤囑托

七、飲食係
國原主計、佐藤雇員、岸雇員、安藤囑托

八、衛生係
橫山醫師、濱田醫師其他若干

九、接待係
內田一醫、堀越大尉、四本大尉、中村主計、迎中尉、國原主計、秀島理事、長崎技師、松井學士、岡部通譯、谷口學士、大河平學士、石川通譯、增田技士、正田通譯、山角技士、橫山醫師、濱田醫師、古川醫師、倉田醫師、井坂囑托、稻生雇員、牛島通譯、岡澤通譯、小田原通譯、船津雇員

一週年 大福引會豫告

今回本社創刊第一週年記念として聊か讀者諸君平素の御眷愛に酬いんか爲に大福引會を催し多數の讀者に一人も漏れなく景品を贈呈するの方法を採ることに致しましたその景品中の重なるものは

一等	金時計（天賞堂保險附）	一個
二等	貴婦人用帶地（白木屋呉服店）	一筋
三等	純金指環（大西白牡丹製）	一個
四等	上等洋傘	一本
五等	縮緬兵兒帶	一筋
六等	縞毛布	壹枚
七等	フランチル單衣地	壹枚
八等	勸業貯蓄債券	壹個
九等	卷煙草入	壹個
十等	言海	壹部

（十一等以下は漸次發表します）

等であります、月極讀者は勿論今後滿一ヶ月以上本紙愛讀の方には周く福引券を配布します、景品陳列及び抽籤方法等の巨細も亦追々と我紙上に揭げます

滿洲日報社

▲旅館料理店組合 同組合にては既報の如く三區に別ら三臺の家臺を繰り出し市中を囃し立て練歩さて午後六時を期し祝宴場なる軍政官々舍に趣く筈にて今其道順を揭ぐれば左の如し

▲家臺の道順 營口時間午前九時を合圖に三發の煙火を打揚げ各自衣裳其他の準備を整へ第二市場驛に勢揃ひをなす事第二の煙火五發（午前十時）を以て同驛を出發し警務課の前通りを料理店組合事務所前を領事館にそれより軍政署前に至り北橫手西北街に出て、三ツ角を南に本社門前にそれより永世街を二本町に至り一時間休息）關東公司前より平岡組門前に出て第三樓にて晝飯を喫し官舍なる餘興場に入る順序なりと

▲餘興番組 餘興番組は第一區一、祝駒二、紀念踊、第二區一、大和董二、萬歲踊、第三區一、夕すゞみ、二、大內山等にして次擧行し終つて數百の婦女子殘らず酒宴に待べるとの事なり

▲二本町の催し 同町にては南北入口及び常盤溫泉橫手等に角行燈の大門を設け各門口及び町內等には角提燈と日丸提燈數百を吊して祝意を表する由なり

▲自轉車行列 二本町中村自轉車店主催となり會員及び愛輪家數十名國旗を以て乘車し市內を行列なすとの事なり

▲第三樓の催し 同樓支配人菊田鉢之助以下二十有餘名の壯者假裝仕吉踊をなして官舍に乘込むと云ふ

▲祇園閣の催し 同家主人田中虎次郎及び雇人松島某の兩名にて富士の裾野を演じ引拔カッポレの藝當を官舍餘興場にて催すと云ふ

▲招待狀を受し人へ注意 今更改めて說明するの必要なけれども當夜招待狀を受けし人は何れも營口の紳士紳商諸君なるを以てかゝる事は萬無かるべきも猥りに草木を手折り又は銘酊の上他人に迷惑等のなき樣充分各自に於て注意せられたき事なり因に當夜の服裝は隨意なるも成るべく洋服又は羽織袴等着用すべき事なり

▲各地よりの來賓 祝賀參列の爲め各地より通知を寄せし人は大石橋第六十一聯隊長渡邊少將、大連運輸部長大谷工兵中佐、新民府軍政官井戶川少佐、安東縣軍政官高山中佐、大連民政署上田事務官等なりと云ふ

●本日の祝賀會注意 本日の記念祝賀會に於ける軍政署の宴會は晴雨に拘らず催さるべく又雨天に非ざる限りは軍艦鳥海號にイルミネーションを點ずべしといふ又市中の各催し就中旅館料理店組合の催しも大抵ならば決行する趣なり

●景品寄贈者へお斷 我社の大福引會に多大の同情を寄せられ各店より景品を寄贈せられたるも紙面輻輳の爲め芳名を本紙に揭載する能はず遺憾ながら次號に記載する事とせん

●注意 本日は本紙創刊一週年及び軍政二週年祝日に付明二十七日及び明後二十八日の兩日は休刊す

北の風

營口地方天氣豫報

昨日の氣温 最高温度七十八度四 最低温度七十一度四 昨年より 低二度二 高二度七

祝營口第二紀念日
祝滿洲日報一週年
尙本祝日をトし永久橋東詰め新築家屋へ移轉いたし從來の通り營業仕候間倍舊御引立奉願上候
加州組 敬白

東省巡航公司業務廣告
本公司は牛家屯東稅關西稅關河北間に小蒸汽船ホーチン號を往復せしめ牛家屯河北停車場發着列車の連絡を取り旅客の迎送をなす
本公司は牛家屯營口河北間貨物の運搬及曳船の依賴に應す 御用の節は電話二百三十六番へ御一報煩し度候
本公司乘船場は牛家屯停車場前棧橋河北停車場前棧橋東稅關棧橋西稅關東部にあり切符發賣所は各乘船場及船中にて發賣す
回數切符は特に割引可致候

賃銀

自＼至	河北	西稅關	東稅關
牛家屯	三十錢	三十錢	二十錢
東稅關	二十錢	二十錢	
西稅關	十錢		

列車連絡時間表（日本時間）
東稅關午前五時發 牛家屯六時三十五分發列車に連絡
仝午前六時發 河北七時發列車に連絡す
西稅關午後六時四十分發 牛家屯發九時三十五分の列車に連絡
牛家屯午前九時四十分發 牛家屯九時十分着の旅客を迎ふ
牛家屯午後八時發 營口牛家屯間通勤諸士の營口歸りの便を計る
河北午後六時發 河北五時四十分の旅客を迎ふ

營口元神廟街第五十五號
東省巡航公司 謹白
電話番號二百三十六番

材木商
秋田洋行 營口永世街平野町（電話一三八番）
本店 秋田商會 下關東南部町

祝軍政二週年

新荷着
營口特約大販賣
永世街 大原洋行

二 日本郵船株式會社
瀛船出帆廣告
營口出帆
●横濱丸 大連出帆 三十日午後二時 門司、神戸行
乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ

大 大阪商船株式會社
瀛船營口出帆廣告
●能登丸 二十九日 入港

瀛船出帆廣告

朝日ビール、スペシャルライト
廉價販賣仕候
滿洲一手販賣元
海岸東稅關西
電話(五五二七)

本紙代價
一枚 四錢
一ケ月前金 八十錢
半ケ年全 四圓八十錢
一ケ年全 九圓六十錢
郵稅無料

本報價目
一張 四分
一月 八角
半年 四元八角
全年 九元六角
告白 一行五号十九字起碼登一日者每行貳角

牛莊 盛進商行 專賣

ゑびすビール

ライオンハミガキ

歐米最新流行品

稻正宗

醬油

室內裝飾品一式

香水石鹼チツク

牛莊營口永世街 盛進商行
奉天城內大南門裡 盛進商行
台灣台北 盛進商行
大阪市高麗橋 盛進商行

滿洲日報第二百九十三號附錄　清國營口重盛街滿洲日報社
（明治三十八年十月廿六日第三種郵便物認可）